

劇場演出空間技術協会 (JATET)

20年の歩み

公益社団法人 劇場演出空間技術協会 事務局

2006年6月25日に発行された機関誌JATET第38号は協会創立10周年記念号として編集され、同号の「社団法人劇場演出空間技術協会 (JATET) 10年の歩み」において、創立以来10年間の活動について報告されているので、本誌においては重複を極力避けて創立11周年から創立20周年までの10年間に重点をおいて報告する。

社団法人の創立と公益社団法人への移行

1. 社団法人劇場演出空間技術協会の創立

平成2年(1990年)7月、社団法人劇場演出空間技術協会は当時の新しい「演出空間技術」の探求と実践を目指してソニー会長故盛田昭夫氏を初代会長に迎え、通商産業省産業サービス室所管の公益法人として意気高らかに発足した。

協会の使命は、舞台技術の多様化に伴い極めて多彩となってきた「演出空間」をハードとソフトの融合により、従来の枠組みを超えた広い分野での協力関係にあるより適正な環境の中に実現せしめ、演出空間施設の総合的な技術の向上を通じて我が国の経済、文化の発展に寄与するところにある。

この使命を果たすため、協会としては「演出空間」を舞台美術、機構、照明、音響、映像などの設備機構の使用による表現効果を具現させる場の総称と位置付け、次に掲げる7つの事業展開を推進することとなった。即ち

- (1) 劇場演出空間施設に関する調査及び研究
- (2) 劇場演出空間施設に関する標準の検討、作成及び普及
- (3) 劇場演出空間施設に関する展示会・見本市等の開催
- (4) 劇場演出空間施設に関する情報の収集及び提供
- (5) 劇場演出空間施設に関する人材育成
- (6) 劇場演出空間施設に関する内外関連機関・団体等との交流
- (7) 前各号に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業である。

2. 公益社団法人劇場演出空間技術協会への移行

平成20年(2008年)12月1日に公益法人制度の関連三法が施行されたのに対応して、当協会は、日頃行っている事業活動が公益社団法人に求められている条件に沿ったものであるという判断のもとに、いち早く移行認定申請を行い、内閣府の認定を頂いて平成22年3月1日に、公益社団法人劇場演出空間技術協会に移行した。

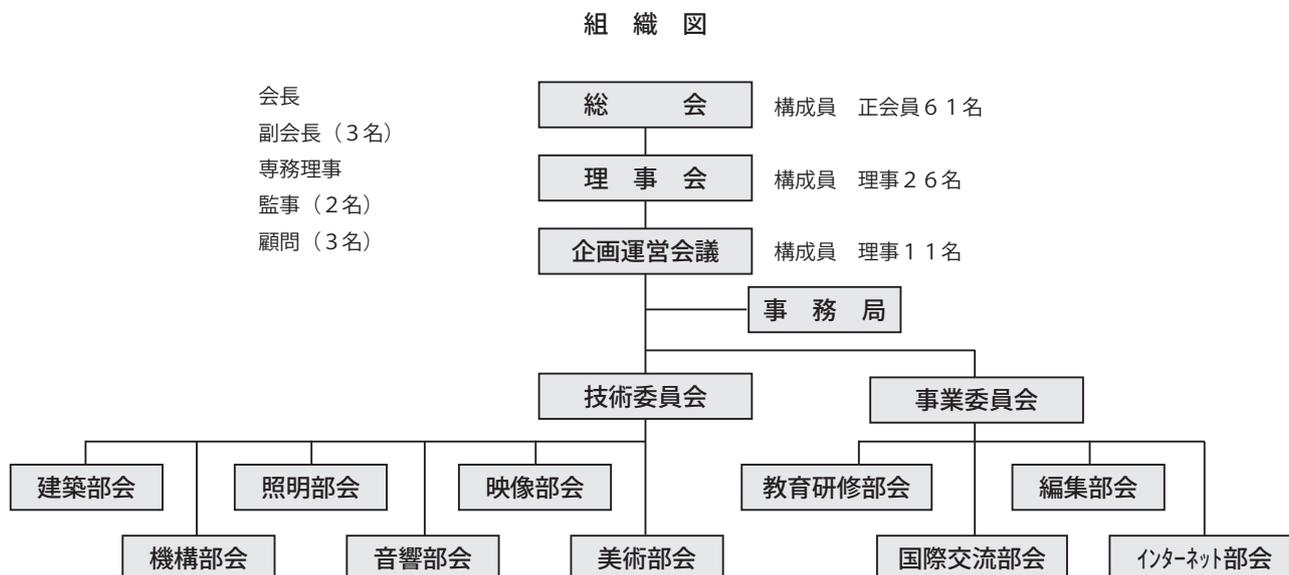
公益社団法人としては次に掲げる7つの事業展開を推進することとした。

- (1) 劇場演出空間施設及びこれに関連する設備・機器の安全確保と技術の向上に関する調査及び研究
- (2) 劇場演出空間施設及びこれに関連する設備・機器の安全確保と技術の向上に関する標準の検討、作成及び普及
- (3) 劇場演出空間施設及びこれに関連する設備・機器の安全確保と技術の向上に関する展示会・見本市等の開催
- (4) 劇場演出空間施設及びこれに関連する設備・機器の安全確保と技術の向上に関する情報の収集及び提供
- (5) 劇場演出空間施設及びこれに関連する設備・機器の安全確保と技術の向上に関する人材育成
- (6) 劇場演出空間施設及びこれに関連する設備・機器の安全確保と技術の向上に関する内外関連機関・団体等との交流
- (7) 前各号に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

変遷

I. 組織

現時点での協会組織は次に示す組織図の通りである。



創設時の組織をもとに、事業の活性化を図るために必要な改革が行われてきたが主なものは次の通りである。

①平成14年（2002年）、広報委員会所属の部会として編集部会に加えてインターネット部会を所属させたのを機に、教育研修委員会、国際交流委員会及び広報委員会を統合して事業委員会を発足させ、教育研修部会、国際交流部会、編集部会とインターネット部会の4部会を所属させた。

②平成16年（2004年）、総務委員会を企画運営会議所属の非常設委員会位置づけ、必要に応じて開催することとした。なお、最近の劇場演出空間施設分野の業務態様の変化を勘案して、技術委員会の所属部会の構成についても検討中である。

II. 会員動向

設立当初は我が国経済も80年代の好景気の余韻を残していたが、その後はバブルの崩壊に続く未曾有の長期にわたる景気低迷の影響を受けたため、特に経営状態悪化に伴う法人会員の退会が続出した時期があったが、この傾向もようやく最悪期を脱した感がある。

協会の財政基盤の確立は依然として期待通りの展開を見せていないのが実情であるが、平成22年（2010年）3月に公益社団法人に移行したのを機に、会員動向としては徐々に持ち直すことが期待される。

注) 正会員 A 法人団体会員
 B 設計関係法人団体会員
 C 個人会員
 賛助会員 A 法人団体会員
 B 個人会員
 特別 特別団体会員

	正 会 員			賛助会員		
	A	B	C	A	B	特別
平成2年7月27日	25社	13社	33名	0	0	0
3年4月1日	51社	21社	73名	23社	43名	0
4年4月1日	56社	21社	74名	27社	47名	0
5年4月1日	55社	20社	75名	20社	47名	0
6年4月1日	50社	18社	72名	19社	46名	0
7年4月1日	52社	17社	71名	17社	48名	0
8年4月1日	53社	17社	67名	17社	54名	0
9年4月1日	54社	17社	66名	15社	54名	0
10年4月1日	50社	17社	64名	15社	64名	0
11年4月1日	42社	16社	61名	14社	61名	2団体
12年4月1日	39社	15社	57名	13社	59名	2団体
13年4月1日	37社	12社	55名	12社	57名	4団体
14年4月1日	33社	9社	53名	14社	64名	6団体
15年4月1日	32社	8社	50名	14社	62名	10団体
16年4月1日	29社	6社	48名	15社	68名	10団体
17年4月1日	28社	6社	42名	14社	64名	8団体
18年4月1日	27社	6社	40名	15社	54名	8団体
19年4月1日	24社	5社	40名	18社	50名	8団体
20年4月1日	24社	5社	40名	19社	60名	9団体
21年4月1日	19社	5社	35名	21社	52名	9団体
22年4月1日	18社	6社	37名	23社	59名	9団体

Ⅲ. 事業活動

協会事業活動の中核は事業委員会及び所属の4部会と技術委員会及び所属の6部会であり、必要に応じて設置する特別委員会の委員も上記委員会と部会所属の委員により構成されることとなる。

事業内容として以下の6項目に分類して報告する。

1. 事業委員会事業活動
2. 技術委員会事業活動
3. 特定課題に関する調査研究事業
4. 各種講演会、展示発表会、施設見学会等開催行事
5. 機関誌発刊事業
6. J A T E T規格等制定・発刊事業

以下、これらの事業活動の成果について報告する。

1. 事業委員会事業活動

事業委員会は、前述のように、平成14年（2002年）に従来の教育研修委員会、国際交流委員会及び広報委員会を統合し、教育研修部会、国際交流部会、編集部会とインターネット部会の4部会を所属部会として発足した。

事業委員会は、教育研修部会、国際交流部会、編集部会及びインターネット部会の担当事業の活動基本方針を審議決定すると共に、所属部会共通の課題につき相互の連携を深めるため年4回の委員会を開催している。

所属部会の事業活動の概要は以下の通りである。

1) 教育研修部会	
H 12 年度：（教育研修委員会）	国内劇場演出空間施設見学会 4 回開催 <ul style="list-style-type: none"> ・文京シビックホール ・東京文化会館 ・大田区民ホールアブリコ ・さいたまスーパーアリーナ 海外劇場施設見学会 1 回開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ近代劇場 講演会・研修会 2 回開催 （技術委員会所属部会と共催） <ul style="list-style-type: none"> ・JATET 音響フォーラム「電気音響のあり方」 ・JATET 建築フォーラム「劇場・ホールの改修工事に関する事例報告とパネルディスカッション」
H 13 年度：（教育研修委員会）	国内劇場演出空間施設見学会 4 回開催 <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市民会館 ・栃木県総合文化センター ・第一生命ホール（東京） ・京都芸術劇場 講演会・研修会 4 回開催 （技術委員会所属部会と共催） <ul style="list-style-type: none"> ・第19回 JATET フォーラム 講演会「劇場—その成立と背景を訪ねて」 ・第20回 JATET フォーラム 実験会「演劇における電気音響の支援」

H 13 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・第21回 JATET フォーラム 講演会（1）「ブロードバンド時代のデジタルシネマ制作と配信」 講演会（2）「デジタルハイビジョンによる大型映像制作への期待」 ・討論会／研究会 討論会「劇場の音を考える—その1」（演劇に対応する音響技術） 研究会 講師及び音響部会有志
H 14 年度：	国内劇場演出空間施設見学会 5 回開催 <ul style="list-style-type: none"> ・置賜文化ホール ・東大和市民会館 ・可児市文化創造センター ・富士見市民文化会館 ・神奈川ドームシアター 講演会・研修会 1 回開催（技術委員会所属部会と共催） <ul style="list-style-type: none"> ・第22回 JATET フォーラム「劇場・ホールの改修工事に関する研究」
H 15 年度：	国内劇場演出空間施設見学会 5 回開催 <ul style="list-style-type: none"> ・NHK放送技術研究所 ・北九州芸術劇場 ・山口情報芸術センター／秋吉台国際芸術村 ・平成中村座 ・国立劇場「おきなわ」 講演会・研修会 2 回開催 （技術委員会所属部会と共催） <ul style="list-style-type: none"> ・研修会「イベントにおけるレーザーの利用について」 ・研修会「最近のホログラフィについて」
H 16 年度：	国内劇場演出空間施設見学会 4 回開催 <ul style="list-style-type: none"> ・シアター1010 ・まつもと市民・芸術館 ・北上市文化交流センター 講演会・研修会 2 回開催 （技術委員会所属部会と共催） <ul style="list-style-type: none"> ・研修会「ラスベガスにおける新オーロラビジョンについて」 ・研修会「最近のシネコンシステムについて」
H 17 年度：	国内劇場演出空間施設見学会 3 回開催 <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県立芸術文化センター ・茅野市民会館 ・劇団四季「四季劇場」春、秋、海、自由4劇場 講演会・研修会 1 回開催 （技術委員会所属部会と共催） <ul style="list-style-type: none"> ・研修会「N A B 2 0 0 5 について」
H 18 年度：	国内劇場演出空間施設見学会 3 回開催 <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県立青少年ホール ・劇団四季「四季芸術センター」 ・都城市総合文化ホール 講演会・研修会 1 回開催 （技術委員会所属部会と共催） <ul style="list-style-type: none"> ・研修会「演出空間におけるレーザーの利用について」
H 19 年度：	国内劇場演出空間施設見学会 2 回開催 <ul style="list-style-type: none"> ・日比谷シアタークリエ 講演会・研修会 1 回開催 （技術委員会所属部会と共催） <ul style="list-style-type: none"> ・研修会「スーパーハイビジョン（8k）の実用化について」

H 20 年度：	国内劇場演出空間施設見学会 2 回開催 <ul style="list-style-type: none"> ・平成中村座 ・座・高円寺（杉並区立杉並芸術会館） 海外劇場演出空間施設見学会 1 回開催 （国際交流部会と共催） <ul style="list-style-type: none"> ・韓国劇場見学会（7 劇場） 忠武アートホール、アルコアーツシアター、自由劇場、国立劇場、ナンタ劇場、LG アーツセンター、ソウルアーツセンター（芸術の殿堂）
H 21 年度：	国内劇場演出空間施設見学会 6 回開催 <ul style="list-style-type: none"> ・堂島リバーフォーラム ・ABC ホール ・サンケイホールブリーゼ ・いわき芸術文化交流館アリオス中劇場 ・日本大学江古田校舎中講堂 ・新ヤマハホール 講演会・研修会 1 回開催 <ul style="list-style-type: none"> ・いわきアリオス「劇場シンポジウム」

2) 国際交流部会

H 12 年度：	（国際交流委員会） OISTAT 日本センター事業活動支援 <ul style="list-style-type: none"> ・OISTAT 本部執行委員会開催（於パシフィコ横浜） 国際交流基金関連 <ul style="list-style-type: none"> ・ワルシャワ国立フィルハーモニー ボイチェフ副総裁と面談
H 13 年度：	（国際交流委員会） OISTAT 日本センター事業活動支援 国際交流基金関連 <ul style="list-style-type: none"> ・マレーシア国立劇場アザトカーン館長と懇談会
H 14 年度：	OISTAT 日本センター事業活動支援 <ul style="list-style-type: none"> ・OISTAT 本部建築委員会及び技術委員会に協会関係者を派遣 ・OISTAT 日本センター主催（於横浜）本部建築委員会開催
H 15 年度：	OISTAT 日本センター事業活動支援 <ul style="list-style-type: none"> ・OISTAT 本部建築委員会及び技術委員会に協会関係者を派遣 海外関連団体の機関誌概要紹介を開始
H 16 年度～：	OISTAT 日本センター事業活動支援 海外関連団体の機関誌概要紹介
H 20 年度：	海外劇場演出空間施設見学会開催 （教育研修部会と共催） <ul style="list-style-type: none"> ・韓国劇場見学会（7 劇場） 忠武アートホール、アルコアーツシアター、自由劇場、国立劇場、ナンタ劇場、LG アーツセンター、ソウルアーツセンター（芸術の殿堂）
H 21 年度：	“JATET FORUM 2009/2010” 出演 <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー「韓国劇場並びに関連団体との交流」 （教育研修部会と共催） ワールド・ステージ・デザイン（WSD）2009 東京展 （OISTAT 日本センターと共催）

3) 編集部会

協会創立 5 ヶ月後の平成 2 年（1990 年）12 月 25 日に機関誌 J A T E T 創刊号を発行以来、年間 4 回カラー版を発行してきたが、平成 20 年度に JATET JOURNAL 誌を創刊し、以下のように機関誌としての役割を分担することとした。

- ・機関誌 J A T E T：劇場演出空間全般に関連する情報提供を目的とする
- ・JATET JOURNAL：劇場演出空間技術並びに協会内の活動情報提供を目的とする

なお、公益社団法人に移行するに際し、機関誌 J A T E T の発行が収益事業と見做されたため、残念ながら発行経費削減を目的としてカラー版からモノクロ版に変更せざるを得なかった。

機関誌 J A T E T と JATET JOURNAL のバックナンバーの総覧は一覧表にて後述する。

4) インターネット部会

平成 12 年（2000 年）に当時の広報委員会の中に編集部会に次いで 2 番目の所属部会としてインターネット部会が新設された。部会の目的は、協会創立から 10 年を迎え、会員相互の情報交流をより促進し協会が担う役割や活動を広く協会内外に広報することにある。

部会設立以来、毎月 1 回を基本としてインターネット作業部会を開催して活動を行っているが、その活動成果の概要は以下のとおりである。

- ・協会ホームページ（URL:<http://www.jatet.or.jp/>）の作成及び更新

平成 12 年（2000 年）に部会で作成し、その後も外注することなく部会で更新作業をおこなっている

- ・J A T E T ニュースの発行

協会及び関連省庁並びに関連団体の情報を協会会員及び関係者にいち早く電子メールで広報するために、平成 15 年（2003 年）10 月 9 日に第 1 号を配信し、その後、毎月 1 回及び号外を配信している。配信先は国内外約 750 名で電子メールで受信できない希望者には F A X による配信を行っている。

（新規に配信を希望される方は以下にご連絡願います）

E-mail : info@jatet.or.jp FAX : 03-3258-2400

2. 技術委員会事業活動

定款に掲げる劇場演出空間施設及びこれに関連する設備・機器の安全確保と技術の向上に関する調査及び研究、並びに標準の検討、作成及び普及のための事業活動を率いる委員会として、所属6部会（建築、機構、照明、音響、映像及び美術）担当事業の基本方針を審議決定すると共に、各部会に共通の課題を統括する。

具体的な個別の担当事業は、原則として担当部会の自主的な運営により展開されるが、必要に応じて部会内に小委員会あるいは分科会を設けて積極的な活動が展開されている。

所属部会の事業活動の概要は以下の通りである。

1) 建築部会	
H 12 年度：	・劇場・ホールの改修工事調査研究 ・JATET 建築フォーラム「劇場・ホールの改修工事に関する事例報告とパネルディスカッション」
H 13 年度：	・特定事業「劇場・ホールの改修に関する調査研究」アンケートとヒアリングを実施、結果を集約・分析し暫定報告書作成
H 14 年度：	・「劇場演出空間のFM（ファシリティマネジメント）」について文献調査、研修会及びホールヒアリング ・第22回 JATET フォーラム「劇場・ホールの改修工事に関する研究」 ・機関誌 JATET 第46号「建築」特集号発行
H 15 年度：	・特定事業「劇場・ホールの改修に関する調査研究」最終報告書取りまとめ作業 ・「劇場演出空間データシート第5集」リスト作成・選定作業、項目内容・出版形態の検討 ・「劇場演出空間のFM（ファシリティマネジメント）」（継続事業）
H 16 年度：	・「劇場演出空間データシート第5集」（継続事業）リスト作成・選定作業、項目内容・出版形態の詳細検討
H 17 年度：	・「劇場演出空間データシート第5集」（継続事業）リスト作成・選定作業、項目内容・出版形態の詳細検討 ・4ワーキンググループによる活動 データシートWG 木造劇場WG 改修計画WG 建築音響WG ・JATET フォーラム2005参加
H 18 年度：	・データシートWG/改修計画WG： 「舞台技術の変遷と今後の方向性」情報収集および年表作成作業 ・木造劇場WG：9回の研究会を開催 ・建築音響WG： 建築舞台音響技術資料作成 「舞台美術と音響特性」について調査実験（神奈川大学と共同）
H 19 年度：	・データシートWG/改修計画WG： 「舞台技術の変遷と今後の方向性」情報収集および年表作成作業 成果を JATET FORUM 2007 において発表した。

H 19 年度：	・木造劇場WG：10回の勉強会を開催、成果を JATET FORUM 2007 において 「木造芝居小屋の魅力」のテーマのもとに音響測定実験に関する分析報告を行った。
H 20 年度：	・データシートWG/改修計画WG： 「舞台技術の変遷と今後の方向性」情報収集および年表作成作業 ・木造劇場WG：数ヶ所の木造芝居小屋において音響測定実験を実施
H 21 年度：	・「劇場・ホールの可変」をテーマに情報収集および年表の作成を実施。成果を舞台・客席可変、残響可変、外部連携、プロセニウム可変、音響反射板の5テーマに分類し、JATET FORUM 2009/2010 に於いて発表した。 ・木造劇場研究会としては、関西木造劇場研究会を発足させると共に木造芝居小屋の音響調査を継続実施して、成果を JATET FORUM 2009/2010 に於いて発表した。

2) 機構部会	
H 12 年度：	・床機構安全指針の検討 ・吊物機構安全指針の見直しと改訂版出版 ・舞台における400V電源使用にかかわる規格制定（電気設備学会）への協力
H 13 年度：	・舞台機構設備特記仕様書と機器一覧表作成例のまとめと出版 ・PL 関連取扱説明書の作成例のまとめと出版 ・舞台機構操作盤の操作と表示にかかわる調査検討 ・床機構安全指針の検討（迫り開口部の安全対応の検討を含む）
H 14 年度：	・舞台機構設備特記仕様書と機器一覧表作成例のまとめと出版 ・PL 関連取扱説明書の作成例のまとめと出版 ・舞台機構操作盤の操作と表示にかかわる調査検討 ・床機構安全指針の検討（迫り開口部の安全対応の検討を含む） ・舞台機構設備の保守点検にかかわる安全の調査検討 ・機関誌 JATET 第47号「機構」特集号発行
H 15 年度：	・舞台機構操作盤の操作と表示にかかわる調査検討（継続事業） ・床機構安全指針の検討（迫り開口部の安全対応の検討を含む）（継続事業） ・舞台機構設備の保守点検にかかわる安全の調査検討（継続事業） ・吊物機構の起動特性、運転騒音に関する基礎調査検討
H 16 年度：	・舞台機構操作盤の操作と表示にかかわる調査検討（継続事業） ・床機構安全指針の検討（迫り開口部の安全対応の検討を含む）（継続事業） ・舞台機構設備の保守点検にかかわる安全の調査検討（継続事業） ・吊物機構の起動特性、運転騒音に関する基礎調査検討（継続事業） ・韓国産業技術試験院（KTL）より技術調査団来訪時、舞台機構技術検討会、劇場施設及び生産現地見学会を開催

H 17 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・JATET フォーラム 2005 参加 ・舞台機構操作盤の操作と表示にかかわる調査検討（継続事業） ・床機構安全指針の検討（迫り開口部の安全対応の検討を含む）（継続事業） ・舞台機構設備の保守点検にかかわる安全の調査検討（継続事業） ・吊物機構の起動特性、運転騒音に関する基礎調査検討（継続事業） ・韓国産業技術試験院 (KTL) 主催の研修会に講師を派遣
H 18 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台機構操作盤の操作と表示にかかわる調査検討（継続事業） ・床機構安全指針の検討（迫り開口部の安全対応の検討を含む）（継続事業） ・舞台機構設備の保守点検にかかわる安全の調査検討（継続事業） ・吊物機構の起動特性、運転騒音に関する基礎調査検討（継続事業） ・ボタン等表示指針他経年指針の見直し（新規事業） ・保守点検関連事項の検討（新規事業）
H 19 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・保守点検に関わる指針の検討及び基本事項の取りまとめ（継続事業） ・ボタン等表示指針他経年指針の見直し（継続事業） ・吊物機構安全指針の見直しによる改訂版の出版 ・JATET FORUM 2007 参加 ・劇場演出空間の運用基準プロジェクトに対する協力
H 20 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・保守点検に関わる指針の検討及び基本事項の取りまとめ（継続事業） ・ボタン等表示指針他経年指針の見直し（継続事業） ・機構操作盤制御盤周囲環境経年指針改訂版取りまとめ ・劇場演出空間の運用基準プロジェクトに対する協力
H 21 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・機構操作盤制御盤周囲環境経年指針改訂版取りまとめ（継続事業） ・舞台機構設備取扱説明書中の運用操作の注意事項取りまとめ ・劇場演出空間の運用基準プロジェクトに対する協力

3) 照明部会

H 12 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・「劇場演出空間要調光装置の調光データ互換に関する調査研究」実施 ・「劇場等演出空間電気設備指針」フライダクト材質及び舞台機構における 400V 電源使用にかかわる規格制定（電気設備学会）への協力 ・国際規格適正化委員会に委員を派遣し、国際規格 (IEC) の改訂に参画 ・関連団体主催「劇場等演出空間電気設備指針」研修講座に講師派遣（全国 10ヶ所）
H 13 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・「劇場演出空間用調光装置の調光データ互換に関する調査研究」の成果を新規格として発行。JATET-L-1150 ・特定事業「演出空間用照明設備・器具の耐用年数の調査研究」アンケート調査実施。 結果の集約・分析を行いガイドライン作成に着手 ・「演出空間用照明器具取付機材に係わる安全に関する調査研究」各種実験を実施 ・関連団体主催「劇場等演出空間電気設備指針」研修講座に講師派遣（全国 8ヶ所）

H 14 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・特定事業「演出空間用照明設備・器具の耐用年数の調査研究」指針策定作業に着手 ・「演出空間用照明器具取付機材に係わる安全に関する調査研究」の成果を新規格として発行。JATET-L-2160、JATET-L-2170 ・国際規格 (IEC) 及び JIS 規格の動向調査を行い、JATET-L 規格改正委員会を設けて、関連法規の改正に合わせて JATET 規格改訂版を発行 ・機関誌 JATET 第 48 号「照明」特集号発行
H 15 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・特定事業「演出空間用照明設備・器具の耐用年数の調査研究」（継続事業） 「照明器具更新のための調査中間報告書」作成。指針作成作業に着手 ・「演出空間用照明器具取付機材に係わる安全に関する調査研究」（継続事業） 平成 14 年度の JATET-L 規格の発行に伴い実施した調査・試験結果を「「演出空間用照明器具取付機材に係わる安全に関する調査研究委員会報告」作成 ・「JATET-L 規格改正調査委員会」による JATET-L 規格の継続（確認）・改正・廃止の検討及び改訂版発行
H 16 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・特定事業「演出空間用照明設備・器具の耐用年数の調査研究」（継続事業）劣化診断シートを策定 ・「JATET-L 規格改正調査委員会」による JATET-L 規格の継続（確認）・改正・廃止の検討及び改訂版発行 ・ワールド・ライティング・フェア 2004 の JATET ブースに説明員を配置し JATET-L 規格等に関する広報及び問い合わせ対応
H 17 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・特定事業「演出空間用照明設備・器具の耐用年数の調査研究」（継続事業） ・調光器「ノンディム」機能に対応する照明機器に関する調査研究 「ノンディム機能付調光器規格（仮）」原案策定 ・「JATET-L 規格改正調査委員会」による JATET-L 規格の継続（確認）・改正・廃止の検討及び改訂版発行 ・JATET フォーラム 2005 参加
H 18 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・特定事業「演出空間用照明設備・器具の耐用年数の調査研究」（継続事業） 劣化診断シートを完成、成果を新規格として発行。JATET-L-7190 ・調光器「ノンディム」機能に対応する照明機器に関する調査研究（継続事業） JATET 規格「ノンディム機能付調光器規格」策定発行 ・舞台・スタジオで使用可能な 30A250V クラス 差込接続器の実態に関する基礎調査
H 19 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・特定事業「演出空間用照明設備・器具の耐用年数の調査研究」（継続事業） 平成 18 年度策定の JATET-L-7190「劇場等演出空間用照明設備更新のためのガイドライン」に対する劣化診断及び更新時期判断プログラムを完成し、新規格として発行し (JATET-L-7191) Web 公開を行った。JATET FORUM 2007 においてガイドラインの概要説明と診断・判定プログラムを紹介した。 ・「JATET-L 規格改正調査委員会」による JATET-L 規格の継続（確認）・改正・廃止の検討及び改訂版発行
H 20 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・新光源調査研究委員会（新規事業） ・演出空間用制御信号等調査研究委員会（新規事業） ・「JATET-L 規格改正調査委員会」による JATET-L 規格の継続（確認）・改正・廃止の検討及び改訂版発行

H 21 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・新光源調査研究委員会（継続事業） 演出空間で現在使用されている照明器具及び新光源の実機検証と今後の方向性を検討 ・演出空間用制御信号等調査研究委員会（継続事業） 各種調光機のアンサーバック機能等の実態調査及び機器の組み合わせによるトラブルの事例調査、海外規格の動向調査と詳細情報収集 ・配電電圧調査研究委員会（新規事業） エコをテーマとした配電電圧の調査研究を開始した。 ・「JATET-L 規格改正調査委員会」による JATET-L 規格の継続（確認）・改正・廃止の検討及び改訂版発行 ・JATET FORUM 2009/2010 に参加
----------	--

4) 音響部会

H 12 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・電源取り出し口及び各機器への宮殿方法に関する調査研究 ・JATET 音響フォーラム「電気音響のあり方」
H 13 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・第 20 回 JATET フォーラム 実験会「演劇における電気音響の支援」 ・討論会／研究会 討論会「劇場の音を考えるーその 1」（演劇に対応する音響技術） 研究会 講師及び音響部会有志
H 14 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・劇場における電機音響のあり方 ・仮設音響設備としての分電盤に関する指針策定 ・機関誌 JATET 第 4 9 号「音響」特集号発行
H 15 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・「ワイアレスマイクの劇場における使用目的と方法」調査研究 ・「持ち込み等仮設に対応する音響電源の設備基準」を策定（日本舞台音響家協会の協力を得た）、電気設備学会に提出
H 16 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・JATET 規格「舞台仮設音響電源設備」発刊大綱とりまとめ ・「劇場ならではの音響体験」現場実験の第一段階として実況収録作業
H 17 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設音響電源設備のあり方 ・JATET 規格「舞台用仮設音響電源設備」とりまとめ ・「劇場ならではの音響体験」現場実験 ・JATET フォーラム 2005 参加
H 18 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・「仮設音響電源設備指針」の発行 ・劇場の魅力を高めるための音響の役割について ・「劇場ならではの音響体験」現場実験
H 19 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・劇場演出空間電気設備指針及び演出空間仮設電気設備指針の普及 ・大劇場の舞台使用音響の再生実験 ・JATET FORUM 2007 参加
H 20 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・演出空間仮設電気設備指針の普及 ・劇場空間における音響実験(サラウンドの可能性確認)
H 21 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・安全基準調査研究 ・非常用放送設備（仮設）と舞台音響設備の関連性調査研究 ・プロ用オーディオ機器の現状と今後の対応調査研究 ・配電電圧 200V 化に向けての技術基準のあり方の調査研究 ・「非常放送セミナー」開催 ・JATET FORUM 2009/2010 に参加

5) 映像部会

H 12 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・大型映像システム（自発光方式および投射方式）調査研究 ・「自発光方式大型映像システムの用語統一」検討 ・研修会「E シネマの現状について」「最近の舞台に使用された大型映像について」
H 13 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・「自発光方式大型映像システムの用語統一」補完検討を行い、成果を新規格として発行。JATET-V-1010 ・見学会（国立科学未来館他 5 件） ・研修会（3D シミュレーション他 3 件） ・JATET フォーラム「大型映像の将来について」
H 14 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・大型映像システムとその関連技術に関する調査研究 ・大型映像装置安全対策調査 ・技術展・研修会へ参加
H 15 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・大型映像システムとその関連技術に関する調査研究（継続事業） ・大型映像装置安全対策調査（継続事業） ・見学会（7 回）、研修会（2 回） ・機関誌 JATET 第 50 号「映像」特集号発行
H 16 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・大型映像システムとその関連技術に関する調査研究（継続事業） ・大型映像装置安全対策調査（継続事業） ・見学会・研修会（レーザー、ホログラフィ、バーチャルリアリティ等） ・研修会「ラスベガスにおける新オーロラビジョンについて」 ・研修会「最近のシネコンシステムについて」
H 17 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・大型映像システムとその関連技術に関する調査研究（継続事業） ・大型映像装置安全対策調査（継続事業） ・見学会・研修会（3D、バーチャル・リアリティ等） ・研修会「NAB 2005 について」 ・JATET フォーラム 2005 参加
H 18 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・大型映像システムとその関連技術に関する調査研究（継続事業） ・大型映像装置安全対策調査（継続事業） ・見学会・研修会 ・研修会「演出空間に於けるレーザーの利用について」
H 19 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・大型映像システムとその関連技術に関する調査研究（継続事業） ・大型映像装置安全対策調査（継続事業） ・見学会・研修会 ・研修会「スーパーハイビジョン (8k) の実用化について」 ・JATET FORUM 2007 参加
H 20 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・大型映像システムとその関連技術に関する調査研究（継続事業） ・見学会・研修会 NHK 技研、ヤマハ・ローランド工場。DISPLAY2008 他
H 21 年度：	<ul style="list-style-type: none"> ・大型映像システム利用手法とその関連技術についての調査研究（継続事業） ・見学会・研修会 ・劇場演出空間の運用基準プロジェクトに対する協力

6) 美術部会	
H 12 年度 ～ H 20 年度	・日本舞台技術総合センター主催「舞台技術セミナー」 に協賛団体として協力
H 12 年度 ～ H 21 年度	・日本舞台美術家協会、OISTAT 日本センター舞台美術 委員会等関連団体と連携活動
H 17 年度：	・JATET フォーラム 2005 のセミナーに講師出演
H 21 年度：	・JATET FORUM 2009/2010 のセミナーに講師出演

7) 特定事業

各部会が実施する事業項目の中で、技術委員会として特に重要と判断した事業は特定事業と位置づけて推進している。各年度の特定事業について以下に報告する。

H 13 年度：	<p>・「劇場・ホールの改修に関する調査研究」(建築部会) 劇場・ホールを対象とした将来の改修工事計画策定のための指針作成を目的として建築部会主宰の調査研究委員会を設置、公共施設の協力を得てアンケートとヒアリングを実施して現状の実態調査を行い、これらの結果を集約・分析し、「劇場・ホールの改修工事に関する調査研究」と題する報告書を取りまとめた。</p> <p>・「演出空間用照明設備・器具の耐用年数に関する調査研究」(照明部会) 劇場・ホールの照明設備・器具更新に関するガイドライン作成を目的として照明部会主宰の調査委員会を設置、公共施設並びに関連団体の協力を得て、広く2,200件におよぶアンケート調査を実施、この改修結果を集約・分析してガイドライン作成に着手した。</p> <p>・「演出空間用照明器具取付機材に係る安全性に関する調査研究」(照明部会) 取付機材の安全確保に関するガイドライン作成を目的として、照明部会主宰の調査研究委員会を設置、取付機材の使用実態を調査すると共に、ハンガー及びスタンドに関しての安全性確保のための各種試験を実施し、この回収結果を集約・分析することによりガイドライン作成に着手した。</p>
H 14 年度：	<p>・「劇場・ホールの改修に関する調査研究」(建築部会) 平成13年度からの継続事業である本特定事業に関しては、成果物の暫定報告を取りまとめ、5月10日に東京芸術劇場大会議室において開催の第22回 JATET フォーラムにおいて参加者多数の出席を得て報告発表を行うと共に、機関誌 JATET 第46号にその要約を掲載した。</p> <p>・「演出空間用照明設備・器具の耐用年数に関する調査研究」(照明部会) 平成13年度からの継続事業である本特定事業に関しては、劇場・ホールの照明設備・器具の使用実態調査を実施しその回収結果の集約・分析を行うことにより、妥当な耐用年数についての指針作成作業に本格的に着手した。</p>

H 14 年度：	<p>・「演出空間用照明器具取付機材に係る安全性に関する調査研究」(照明部会) 平成13年度からの継続事業である本特定事業に関しては、取付機材の使用実態調査を実施、取付機材のあり方についての指針作成作業を完了し、その調査研究の成果物として以下の JATET 規格を発行した。 JATET-L-2160「演出空間用照明器具のつり下げハンガー(手締め式)規格」 JATET-L-2170「演出空間用照明器具の平置きスタンド規格」</p>
H 15 年度：	<p>・「劇場・ホールの改修に関する調査研究」(建築部会) 平成14年度の成果物暫定報告に引き続き、最終報告書の取りまとめ作業を実施した。</p> <p>・「演出空間用照明設備・器具の耐用年数に関する調査研究」(照明部会) アンケート集計結果を「照明器具更新のための調査昼間報告」として取りまとめ、妥当な耐用年数についての指針作成作業を本格的に推進した。</p> <p>・「演出空間用照明器具取付機材に係る安全性に関する調査研究」(照明部会) 平成14年度の JATET 規格発行に伴い、実施した調査・試験結果を「演出空間用照明器具取付機材に係る安全性に関する調査研究委員会報告」として取りまとめ、特定事業活動を完了した。</p>
H 16 年度：	<p>・「劇場演出空間データシート第5集発刊」(建築部会) 平成18年度発刊を目指して、建築部会が準備作業を推進した。</p> <p>・「演出空間用照明設備・器具の耐用年数に関する調査研究」(照明部会) 前年度実施したアンケート集計結果も勘案して。加点法により劣化診断シートを策定した。</p>
H 17 年度：	<p>・「劇場演出空間データシート第5集発刊」(建築部会) 建築部会にデータシートWGを組織し、第5集発刊に向けてのリスト作成・選定と項目内用及び出版形態の検討作業を実施した。</p> <p>・「演出空間用照明設備・器具の耐用年数に関する調査研究」(照明部会) 前年度に骨子を策定した劣化診断シートに対する評価項目と評価点の妥当性についての検証作業を実施した。</p>
H 18 年度：	<p>・「演出空間用照明設備・器具の耐用年数に関する調査研究」(照明部会) 前年度に引き続き運用のための補足的調査研究を行い、劣化診断シートを完成、JATET 規格「劇場等演出空間用照明設備更新のためのガイドライン」JATET-L-7190 を発行し、特定事業活動を完了した。</p>
H 19 年度：	<p>・JATET FORUM 2007 技術委員会の主宰により、各部会の最近の活動状況と併せて将来のビジョンを発表する場としてフォーラムを開催した。 概要は 4. 各種講演会、展示発表会、施設見学会等開催行事 1) 各種講演会(講演会、シンポジウム、フォーラム、セミナー等) の項において報告する。</p>

3. 特定課題に関する調査研究事業

特定課題の調査研究は、平成2年から平成10年度にわたって、すなわち当協会創立以来9年間、日本自転車振興会はじめ各公的基金団体からの補助を受けて調査研究委員会を設置し実施した事業であり、その研究成果については事業ごとに報告書として取りまとめ広く関係先に配布した。

残念ながら平成11年度以降は該当事業はないが、参考のために該当事業の研究課題名を以下に報告する。その概要については機関誌JATEET第38号（協会創立10周年記念号）15頁～17頁を参照されたい。

研究課題1：「英国における演出空間の標準・規制・安全等に関するあり方並びに同空間技術展示会開催に関する調査研究」 財団法人 産業研究所委託事業 実施期間：平成2年12月～平成3年6月
研究課題2：「英国及び独国における演出空間の標準・規制・安全等に関する調査研究」 財団法人 産業研究所委託事業 実施期間：平成3年10月～平成4年3月
研究課題3：「国内及び欧州新分野集客施設実地調査」 日本自転車振興会補助事業 実施期間：平成3年6月～平成4年3月
研究課題4：「リモコン照明制御規格に関する調査研究」 財団法人 産業研究所委託事業 実施期間：平成4年6月～平成5年3月
研究課題5：「米国新分野集客施設実地調査」 日本自転車振興会補助事業 実施期間：平成4年8月～平成5年3月
研究課題6：「劇場演出用機器設計基準に関する調査研究」 財団法人 産業研究所委託事業 実施期間：平成5年8月～平成6年3月
研究課題7：「感性産業に関する調査研究」 財団法人 産業研究所委託事業 実施期間：平成5年10月～平成6年3月
研究課題8：「劇場産業の振興に関する調査研究」 日本自転車振興会補助事業 実施期間：平成5年6月～平成6年3月
研究課題9：「劇場演出における音響効果測定方法等に関する調査研究」 財団法人 産業研究所委託事業 実施期間：平成6年6月～平成7年3月
研究課題10：「照明機器制御信号用試験器開発補助事業」 日本自転車振興会補助事業 実施期間：平成6年6月～平成7年3月
研究課題11：「劇団経営実態に関する調査研究」 全国中小企業団体中央会補助事業 （平成6年度活路開拓ビジョン調査事業） 実施期間：平成6年9月～平成7年3月
研究課題12：「調光データ共通フロピディスク規格開発に関する調査研究」 財団法人 産業研究所委託事業 実施期間：平成7年8月～平成8年3月

研究課題13：「平成8年度劇場機構設備の荷重・強度に関する調査研究」 社団法人 日本機械工業連合会委託事業 実施期間：平成8年9月～平成9年3月
研究課題14：「劇場電気音響最終調整用CDに関する調査研究」 財団法人 放送文化基金助成事業 実施期間：平成9年2月～平成10年3月
研究課題15：「劇場装置等にかかる安全性に関する調査研究」 社団法人 日本機械工業連合会委託事業 実施期間：平成10年7月～平成11年3月

4. 各種講演会、展示発表会、施設見学会等開催行事

劇場演出空間施設に関する情報の提供は公益法人の当協会としての大きな使命であり、不特定多数の関係者を対象とした各種講演会、展示説明会、施設見学会等の開催は、公的機関の補助事業を含め協会事業の一つの核として位置づけられている。

以下に協会創立20年間にわたる開催行事につきその概要を述べる。

但し、創立から最初の10年間については概略を述べるにとどめるので、その概要については機関誌JATEET第38号（協会創立10周年記念号）17頁～28頁を参照されたい。

1) 各種講演会（講演会、シンポジウム、フォーラム、セミナー等）	
H2年度：	・「劇場における技術標準について」 日時：平成3年3月14日 会場：東京芸術劇場中会議室
H3年度：	・「イギリスにおける劇場技術とその国際性について」 日時：平成3年4月11日 会場：東京芸術劇場大会議室 ・「ウイーン歌劇場及びブルグ劇場について」 日時：平成3年7月23日 会場：東京芸術劇場大会議室
H4年度：	・「明日のアーバン リクリエーション建築」 日時：平成4年5月14日 会場：東京芸術劇場大会議室 ・「スーパー歌舞伎“オグリ”とその創造者たち」 （シンポジウム） 日時：平成4年5月15日 会場：新橋演舞場舞台及び客席 ・「オペラを中心としたチリ舞台美術の展望」 日時：平成5年3月26日 会場：東京芸術劇場大会議室
H5年度：	・「新しい時代の劇場空間について」 日時：平成5年3月26日 会場：東京芸術劇場大会議室 ・「演出照明制御のプロトコルについて」（懇談会） 日時：平成5年7月20日 会場：丸茂電機(株)技術センター会議室 ・「よい劇場、ホールを作るために」 日時：平成3年3月14日 会場：東京芸術劇場中会議室

<p>H 6 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界の演劇」(トークショー) 日時：平成6年4月12日 会場：銀座セゾン劇場 ・「照明等演出用設備の伝送規格(案)について」(JATET-L-3010 セミナー) 日時：平成6年7月11日 会場：東京芸術劇場中会議室 ・「音声明瞭度指標 S T I のホール音響設備設計への適用について」(音響設計基準セミナー) 日時：平成6年9月1日 会場：東京芸術劇場中会議室 ・「新分野集客施設実態調査研究」(新分野集客施設セミナー) 日時：平成6年11月9日 会場：東京芸術劇場中会議室 ・「吊物機構安全指針・同解説(案)と舞台機構機器操作上の使用用語について」(舞台機構セミナー) 日時：平成6年11月24日 会場：東京芸術劇場中会議室 	<p>H 7 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「劇場演出空間に関するシンポジウム」 日時：平成7年9月19日～21日 会場：東京芸術劇場小ホール2 / 中会議室 [演題] 新・演出空間論「O I S T A T / 国際的視点からの展望と課題」 「21世紀において文化は産業となりうるのか？」 「欧米におけるムービングスポットの現状」 「舞台芸術と新しい感性の結合による新演出空間の可能性(野外劇場、テント、オープンスペース)」(討論会) 「ロックステージのファンタジーとダイナミズム」 「JATET 調査研究発表」 ・演出空間の基準・規則・安全について ・リモコン照明機器制御の規格について ・劇場演出における音響効果測定について ・劇団経営実態に関する調査研究について ・新分野集客施設の実態について ・劇場マネージメント関連の人材育成について
<p>H 8 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「古代劇場へのアプローチ」 日時：平成8年6月27日 会場：東京芸術劇場大会議室 ・「活路開拓ビジョン実現化事業」(研修講演会) 課題：(6 研修会共通) 「アートマネージメントを主体とした人材育成について」 「劇場演出空間設備の吊物安全基準について」 「PL 部施行に伴う劇場演出空間設備取扱い基準について」 日時 / 会場 第1回研修会 10月24日 札幌市 第2回研修会 11月8日 仙台市 第3回研修会 11月26日 福岡市 第4回研修会 12月5日 大阪市 第5回研修会 12月19日 名古屋市 第6回研修会 1月17日 東京都 	<p>H 9 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「劇場建築に関する講演・討論会」(JATET フォーラム '97) 日時：平成9年12月9日～10日 会場：東京芸術劇場大会議室 [講演会] ・これからの劇場建築をめぐる諸課題 ・西暦2000年における劇場建造物 ・建築主にとっての諸問題 ・劇場建設と劇場運営に於ける技術的及び経済的状況について」 [討論会] ・第1部「近代劇場建築の傾向と課題」 ・第2部「劇場施設の運営についての課題」 ・「イタリヤ近世劇場へのアプローチ」 日時：平成10年3月5日 会場：東京芸術劇場大会議室

<p>H 10 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「劇場運営に関する講演・討論会」(JATET フォーラム '98) 日時：平成10年10月6日～7日 会場：東京：東京芸術劇場 大阪：千里ライフサイエンスセンター [基調講演] 「近代劇場運営に関する一考察」(両会場共通) [討論会] 「アートマネージメントの実体と問題点」(両会場共通) 	<p>H 11 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「シェイクスピア劇の上演」 日時：平成11年5月21日 会場：東京芸術劇場大会議室 ・「バロック：イタリヤ劇場からドイツ近代劇場へ」 日時：平成11年9月29日 会場：東京芸術劇場大会議室 ・「劇場舞台設備の標準規定について」(JATET フォーラム '99) 日時：平成11年12月8日 会場：東京芸術劇場大会議室 [基調講演] 「オーストリアおよびヨーロッパにおける劇場設備の標準規定について」 [討論会] 「劇場舞台設備の標準規定の問題点とリニューアルの傾向と対策について」
---	---

H 12 年度： ・「電気音響のあり方」(JATET 音響フォーラム)
日時：平成13年2月23日
会場：東京芸術劇場中会議室
広く各界の有識者をパネリストに招き、関係分野からの多数の出席者と活発な討論を行った。
・「劇場・ホールの改修工事に関する事例報告とパネルディスカッション」
日時：平成13年2月23日
会場：東京芸術劇場大会議室
600余館のホールアンケートに対して半数の有効回答を得て、また改修ヒアリングは22館ホールに対して詳細調査を行った調査結果をもとに事例報告を行ったもの。実例データにそって多数の参加者による有意義な討論が行われた。

H 13 年度： ・第19回 JATET フォーラム (講演会)
「劇場—その成立と背景をたずねて—」
日時：平成13年4月13日
会場：東京芸術劇場大会議室
講師：小谷喬之助
・第20回 JATET フォーラム (実験会)
「演劇における電気音響の支援」
日時：平成13年11月20日
会場：新国立劇場中劇場
主催：音響部会
共催：新国立劇場技術部、日本舞台音響家協会
・第21回 JATET フォーラム (講演会)
日時：平成14年2月7日
会場：東京芸術劇場中会議室
演題1：「ブロードバンド時代のデジタルシネマ制作と配信」
講師：稲蔭正彦 (慶応大学教授)
演題2：「デジタルハイビジョンによる大型映像制作への期待」
講師：為ヶ谷秀一 (女子美術大学教授)
・「劇場の音を考える—その1 (演劇に対応する音響技術)」(討論会/研究会)
日時：平成13年8月23日
会場：東京グローブ座ロビー
主催：音響部会

H 14 年度： ・第21回 JATET フォーラム
日時：平成14年5月10日
会場：東京芸術劇場大会議室
テーマ：「劇場・ホールの改修工事に関する調査研究」
主催：建築部会

H 15 年度： ・「イベント等におけるレーザーの利用について」(研修会)
日時：平成15年10月17日
会場：(株)総合舞台機材センター
講師：浦川剛氏、北村祐介氏 (レーザーメディアファクトリー)
主催：映像部会/教育研修部会
・「最近のホログラフィについて」(研修会)
日時：平成16年2月13日
会場：(株)関電工本社ビル
講師：奥井誠人氏 (NHK放送技術研究所)
主催：映像部会/教育研修部会

H 16 年度： ・「ラスベガスに於ける新オーロラビジョンについて」(研修会)
日時：平成16年7月6日
会場：日本無線(株)本社会議室
講師：前嶋一也氏 (三菱電機(株))
主催：映像部会/教育研修部会
・「最近のシネコンシステムについて」
日時：平成16年10月26日
会場：ティ・ジョイ大泉
講師：江崎讓治氏 ((株)ティ・ジョイ)
主催：映像部会/教育研修部会

H 17 年度： ・ JATET フォーラム 2 0 0 5

協会創立 1 5 周年を機に、協会の活動状況と併せて将来のビジョンを発表する場として JATET フォーラム 2 0 0 5 を下記の通り開催し、延 1, 0 0 0 名に及ぶ参加者を得て、期待をはるかに上回る大きな成果を得た。

尚、企画運営は事業委員会及び技術委員会委員 1 2 名により構成された JATET フォーラム 2 0 0 5 実行委員会が担当した。

日時：平成 1 7 年 1 1 月 1 日（火）・ 2 日（水） 0 9 : 3 0 ~ 2 0 : 0 0

会場：東京芸術劇場 大会議室及び中会議室

実施内容：

基調講演（2）

- ・「計画・運営の主体性を明確に」小谷喬之助（JATET 会長）
- ・「魅力あるホールや劇場をつくるために」伊東豊雄（（株）伊東豊雄建築設計事務所）

シンポジウム（3）

- ・「劇場技術の運用と舞台技術者が担う役割」
出席者：大野晃（神奈川県民ホール） 小川富市（（株）パシフィックアートセンター）
勝又伸夫（（株）総合舞台サービス） 真野幸明（愛知県舞台運営事業協同組合）
渡邊伸男（（株）共立）

進 行：草加叔也（JATET 編集部長、空間創造研究所）

- ・「JATET の新しい取り組み：公共施設特別委員会」

出席者：小野隆浩（JATET 公共施設特別委員会委員、（財）びわ湖ホール）
草加叔也（ “ ” 、劇場コンサルタント）
桑谷哲男（ “ ” 、（財）可児市文化芸術振興財団）
佐藤壽晃（照明家）

進 行：森健輔（JATET 教育研修部長、森平舞台機構（株））

- ・「日本の木造劇場空間を再考するー現代の劇場空間づくりに継承すべき課題ー」

参加者：本杉省三（JATET 技術委員長、日本大学）
山崎泰孝（JATET 建築部会委員、A Z 環境計画研究所）
司 会：勝又英明（JATET 建築部会長、武蔵工業大学）

セミナー（5）

- ・「床機構安全指針」桂川潤次郎（JATET 機構部会副部長、桂川研究室）
- ・「演出空間に於ける大型映像の利用について」大澤博二（JATET 映像部会長、（株）総合舞台）
- ・「照明設備更新に関する調査研究の中間報告」斎藤公治（JATET 照明部会主査、E.A.T プラン（株））
- ・「劇場の音響設備の傾向」八幡泰彦（JATET 音響部会長、（株）サウンドクラフト）
- ・「平成中村座」金井勇一郎（金井大道具（株））

各委員会・部会の活動状況と将来計画の展示発表

協会出版物展示

会員会社カタログ・資料の展示

懇親会

- ・「N A B 2 0 0 5 について」（研修会）

日時：平成 1 7 年 5 月 3 1 日

会場：（株）総合舞台スタジオ

講師：為ヶ谷秀一氏（女子美術大学教授）

主催：映像部会／教育研修部会



H 18 年度： ・ 「演出空間に於けるレーザーの利用について」（研修会）

日時：平成 1 9 年 3 月 3 0 日

会場：（株）総合舞台サービス

講師：矢崎芳博氏（（有）ランダムエレクトロニクスデザイン）

主催：映像部会／教育研修部会

H 19 年度： ・ JATET FORUM 2007

技術委員会の主宰により各部会の最近の活動状況と併せて、将来のビジョンを発表する場として概略次の通りのフォーラムを開催した。

開催日時： 2007年9月4日～5日

会 場：日本大学理工学部1号館CSTホール

テーマ：「舞台技術の今後の方向性」

来場者数：延約1,300名

実施内容：

特別講演（1）

- ・「シルク・ド・ソレイユの舞台技術」 Gerard Edwards-Web(Cirque du Soleil Inc.)

シンポジウム（2）

- ・「舞台技術の変遷と今後の方向」
 - 「舞台技術の変遷と今後の方向性」 勝又英明（建築部会）
 - 「舞台機構の変遷」 桂川潤次郎（機構部会）
 - 「劇場の舞台音響の変遷」 八幡泰彦（音響部会）
 - 「演出照明の流れ」 伊藤安雄（照明部会）
 - 「演出空間（舞台）に於ける大型映像の変遷」 大澤博二（映像部会）
 - 「コンサートホールの舞台客席形式の変遷」 本村佐近・桂川清彦（建築部会）
 - 「海外コンサートホールの変遷」 松枝京二（建築部会）
 - 「建築音響技術の変遷」 藪下満・本村博行・松枝京二（建築部会）
 - 「空間可変、可動可変の変遷」 南 知之（建築部会）
 - 「外部とつながった劇場の変遷」 永池雅人（建築部会）
 - 「大空間の変遷」 岡村耕治（建築部会）

以下資料のみ

- 「劇場関連図書」 近江哲朗（建築部会）
- 「商業劇場の変遷」 永井聡子（建築部会）
- 「学校施設としての劇場・ホールの変遷」 近江哲朗（建築部会）
- 「銀座・日比谷地区の映画館の変遷（戦後編）」 小川清則（建築部会）
- 「劇場・ホールコンベンションの変遷」 近江哲朗（建築部会）
- 「木造劇場（芝居小屋）の変遷」 松枝京二・福田喜文（建築部会）
- 「劇場椅子の変遷」 建築部会・コトブキ・岡村製作所

- ・「魅力的な演出空間を創出するための電気設備の安全」 渡邊良三（(社)電気設備学会）

セミナー（5）

- ・「舞台機構の安全と保守」 桂川潤次郎（機構部会）
- ・「仮設に対応する電源設備について」 中川堅司（音響部会）
- ・「舞台における大型映像の利用について」 佐藤彰洋（(株)関電工）
- ・「舞台照明設備の適正更新時期」 斎藤公治（照明部会）
- ・「木造芝居小屋の魅力」 山崎泰孝・鈴木英一・藪下満（建築部会）

- ・「スーパーハイビジョン（8k）の実用化について」

日時：平成20年3月24日

会場：(株)関電工プレゼンテーションルーム

講師：国分秀樹氏（(財)NHKエンジニアリングサービス）

主催：映像部会/教育研修部会



H 21 年度： ・ JATET FORUM 2009/2010

各部会の活動状況と併せて将来のビジョンを発表する場として次の通り「JATET FORUM 2009/2010」を開催した。

開催月日： 平成22年2月2日（火）～3日（水）

会 場： あうるすぽっと（豊島区立舞台芸術交流センター）

テ ー マ： 「劇場演出空間における芸術と技術に調和を求めて」

来場者数： 延450名

実施内容：

基調講演（1）

- ・「歌舞伎の舞台空間」 芝居小屋と劇場/大道具と舞台装置 古井戸秀夫氏（東京大学教授）

セミナー（5）

- ・「木造劇場研究会活動報告」（建築部会 木造劇場研究会）
 - 「木造劇場研究会の活動」 山崎泰孝（木造劇場研究会会長、AZ環境計画研究所）
 - 福田喜文（ " " 委員、初雁装飾工業（株））
 - 「関西木造劇場研究会の活動報告」 森 幹雄（ " " 委員、武庫川女子大学）

H 21 年度：

- 「木造芝居小屋の音響特性」 藪下 満 (" " 委員、(有) Y A B 建築・音響設計)
- 「旧鶴川座の保存活動」 福田喜文 (" " 委員、初雁装飾工業 (株))
- ・「NINAGWA 十二夜の舞台美術」 金井勇一郎 (美術部会長、金井大道具 (株))
- ・「劇場ホールの可変」 (建築部会)
 - 「劇場・ホールにおける可変」 勝又英明 (建築部会長、東京都市大学)
 - 「舞台・客席可変の変遷」 南知之 (建築部会委員、(株) 石本建築事務所)
 - 「残響可変の変遷」 藪下 満 (" " 、(有) Y A B 建築・音響設計)
 - 「外部連携の変遷」 戸田直人 (" " 、(株) シアターワークショップ)
 - 永池雅人 (" " 、(株) 梓設計)
- 「プロセニウム (額縁) 可変の種類と主な事例、登場時期」 近江哲朗 (建築部会副会長、A.T.Network)
- 「音響反射板の種類と主な事例およびその変遷」 近江哲朗 (建築部会副会長、A.T.Network)
- ・「韓国劇場ならびに関連団体との交流」 (事業委員会)
- 「韓国劇場見学会報告」 (見学会参加者)
 - 舞台機構設備 (1) 高崎秀明 (三精輸送機 (株))
 - 舞台機構設備 (2) 村松英章 ((株) サンケンエンジニアリング)
 - 舞台機構設備 (3) 土井辰仁 (森平舞台機構 (株))
 - 舞台照明設備 西奈美博 (東芝ライテック (株))
 - 舞台音響設備 (1) 結城芳弘 (ビクターアークス (株))
 - 舞台音響設備 (2) 岸本一史 (ヤマハサウンドシステム (株))
 - 舞台椅子設備 松原和彦 ((株) コトブキ)
- 「日韓における 国際交流報告」 伊東正示 (国際交流部会長、(株) シアターワークショップ)
- 「韓国産業技術試験院 (KTL) と舞台施設安全診断支援センター (SSC) の活動」 森健輔 (事業委員長、森平舞台機構 (株))
- 「Regulations of Stage Safety Inspection and Roles of Stage Safety Center in Korea」 Dr.Don-Kyun Kim (KTL SSC)
- ・「劇場演出空間の運用および安全に関するガイドライン」 策定報告 佐藤壽晃 (JATET 基準協担当理事)

・いわき芸術文化交流館アリオス・中劇場「シンポジウムと見学会'09」

「劇場計画の現在—舞台表現の更なる可能性に向けて」と題したシンポジウムと見学会をいわき芸術文化交流館アリオス及び (株)いわき文化交流パートナーズと共催して次の通り開催した。

開催日時：平成 21 年 10 月 23 日 (金) 11:00~19:00

会 場：いわき芸術文化交流館アリオス中劇場

実施内容：第 1 部 シンポジウム「劇場を考える」

第 2 部 講演会「劇場を造る」

第 3 部 見学会

参加者：117 名

参加者は J A T E T、建築学会、福島県建築士会いわき支部、いわき建築設計事務所協会および一般から 57 名。これに加え、司会者、パネリスト、講演者および共催 3 者のスタッフを合わせて約 50 名の関係者がこのイベントを盛り上げ、参加者から好評を頂いた。

プログラム：

第 I 部：シンポジウム「劇場を考える」

司会：勝又英明 (東京都市大学教授、JATET 建築部会長)

講演：眞野 純 (神奈川芸術劇場開設準備室長)

齋藤 義 (環境デザイン研究所、いわき市施設計画コンサル)

西村 充 (TPT メンバー、いわきアリオス舞台技術マネージャー)

伊東正示 (シアターワークショップ主宰、事業者側コンサル)

パネルディスカッション：「舞台表現の更なる可能性に向けて」

第 II 部：報告講演「劇場をつくる」

進行：小川幹雄 (新国立劇場、JATET 教育研修部会長)

講演：古藤田茂 (佐藤尚巳建築研究所、事業者側建築設計者)

内田匡哉 (永田音響設計、事業者側音響設備設計者)

山本勝弘 (カヤバシステムマシナリーズ技術部)

荒木弘史 (丸茂電機設計部)

村中勝利 (ヤマハサウンドシステム技術部)

第 III 部：見学会「劇場を見る」

進行：森 健輔 (JATET 事業委員長)

アリオス技術スタッフ及び事業者グループ技術担当者が操作、説明

主要メニュー：1. 2 種類のユニットの浮上・移動による形式転換

2. ブリッジ及びプロセニウムブリッジの横行システム

3. たてのり用束柱をもつ迫の昇降

(以下グループ別) 4. 照明電源ケーブル、信号ケーブルの移動追随システム

5. 音響入力、出力ケーブルの移動追随システム

6. 機構操作ギャラリー、照明・音響コントロール室

2) 展示発表会

(1) ワールド・ライティング・フェア共催行事

全国舞台テレビ照明事業協同組合の主催によるワールド・ライティング・フェアはあらゆるエンターテインメントに係る演出照明を網羅するもので、平成2年（1990年）10月に第1回が開催され、以後隔年ごとに開催されている。

照明に係るハードとソフト部門を、最も主要な事業活動部門の一つと位置付けている当協会にとっては非常に重要なフェアであるため、当協会は平成6年（1994年）の第3回フェアから共催団体として協力を行っている。

過去の共催実績を以下に示す。

ワールド・ライティング・フェア共催実績		
催 事	会 期	会 場
ワールド・ライティング・フェア in TOKYO 1994	1994年6月 16日～18日	日本コンベンション センター（幕張メッセ）
ワールド・ライティング・フェア in TOKYO 1996	1996年6月 20日～22日	パシフィック横浜 展示ホール
ワールド・ライティング・フェア in TOKYO 1998	1998年6月 18日～20日	パシフィック横浜 展示ホール
ワールド・ライティング・フェア in TOKYO 2000	2000年6月 22日～24日	パシフィック横浜 展示ホール
ワールド・ライティング・フェア in TOKYO 2002	2002年10月 3日～5日	パシフィック横浜 展示ホール
ワールド・ライティング・フェア in TOKYO 2004	2004年6月 24日～26日	パシフィック横浜 展示ホール
ワールド・ライティング・フェア in TOKYO 2006	2006年6月 15日～17日	パシフィック横浜 展示ホール
ワールド・ライティング・フェア in TOKYO 2008	2008年7月 3日～5日	パシフィック横浜 展示ホール
ワールド・ライティング・フェア in TOKYO 2010	2010年10月 22日～23日	東京国際フォーラム

3) 施設見学会

劇場演出空間施設に関する情報の提供は協会事業の重要課題のひとつであり、特に直接施設の実体を学習できる見学会については、多くの関係者からその開催を強く求められている。

協会としてはこの要望に応えるべく、事業委員会教育研修部会が担当して、各施設の協力を得ながら年間4施設を目標に国内の見学会を実施している。

一方、海外についても3回シリーズとして古代、中世及び近代の代表的な劇場施設の見学会を実施した。また平成20年（2008年）には韓国ソウル市の7劇場施設の見学会を実施した。

(1) 国内劇場演出空間施設見学会

実施実績を次表に示す。

劇場施設見学会実施実績（2010年11月現在）		
実施	劇場施設名	所在地
1992/9/29	愛知芸術文化センター	名古屋市
1993/1/8	東京グローブ座	東京都
// /1/26	明治座	東京都
// /10/22	森のホール21	松戸市
// /12/10	ランドマークホール	横浜市
1994/1/26	よこすか芸術劇場	横須賀市
// /10/3	彩の国さいたま芸術劇場	与野市
1995/1/24	劇団四季品川キャッツシアター	東京都
// /2/13	三重県総合文化センター	津市
// /6/21	新国立劇場	東京都
// /7/26	紀尾井ホール	東京都
// /9/29	三鷹市芸術文化センター	三鷹市
// /12/5	アクトシティ浜松	浜松市
1996/7/25	東京国際フォーラム	東京都
// /10/14	富山市芸術文化ホール／能楽堂	富山市
1997/3/11	世田谷パブリックシアター	東京都
// /6/9	新国立劇場	東京都
// /7/3	桐生市市民文化会館	桐生市
// /7/25	栃木県烏山町山あげ祭	栃木県烏山町
// /10/6	すみだトリフォニーホール	東京都
1998/2/18	ひこね市文化プラザ	彦根市
// /6/9	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	大津市
// /6/30	東京芸術大学「奏楽堂」	東京都
// /9/18	愛知県長久手町文化の家	愛知県長久手町
// /10/26	中野区サンプラザホール	東京都
1999/4/6	JR東日本アートセンター「四季劇場」	東京都
// /7/6	桶川市民ホール	埼玉県桶川市
// /8/31	静岡県コンベンションアーツセンター	静岡市
// /10/14	新潟市民芸術文化会館	新潟市
2000/10/31	文京シビックホール	東京都
// /11/6	東京文化会館	東京都

2001/1/23	大田区民ホールアブリコ	東京都
// /1/30	さいたまスーパーアリーナ	さいたま市
// /5/28	名古屋市市民会館	名古屋市
// /10/17	栃木県総合文化センター	宇都宮市
// /11/15	第一生命ホール	東京都
// /12/11	京都芸術劇場	京都市
2002/4/22	置賜文化ホール	山形県米沢市
// /7/5	ハミングホール	東京都東大和市
// /10/28	可児市文化創造センター	岐阜県可児市
// /11/22	富士見市民文化会館「キラリ☆ふじみ」	埼玉県富士見市
2003/1/24	かながわドームシアター	横浜市
// /6/11	NHK放送技術研究所	東京都
// /7/10	北九州芸術劇場	北九州市
// /7/11	秋吉台国際芸術村	山口県美祢市
// /7/11	山口情報芸術センター	山口市
// /9/24	平成中村座	東京都
// /11/21	国立劇場おきなわ	沖縄県浦添市
2004/4/28	THEATRE 1010	東京都
// /9/3	まつもと市民芸術館	まつもと市
// /11/4	北上市文化交流センターさくらホール	岩手県北上市
2005/3/4	NHK大阪ホール	東京都
// /7/14	兵庫県立芸術文化センター	兵庫県西宮市
2006/2/20	四季劇場	東京都
// /3/9	茅野市民館	長野県茅野市
// /9/21	神奈川県立青少年センター	横浜市
// /11/30	四季芸術センター	東京都
2007/2/26	都城市総合文化ホール	宮崎県都城市
// /12/19	日比谷シアタークリエ	東京都
2008/2/27	千葉市美浜文化ホール	千葉市
2009/9/8~11	韓国ソウル市内7劇場（忠武アートホール、アルコアーツシアター、自由劇場、国立劇場、ナンタ劇場、LGアーツセンター、ソウルアーツセンター）	大韓民国ソウル市
// /9/22	平成中村座	東京都
// /3/11	杉並芸術会館「座・高円寺」	東京都
// /10/23	いわき芸術文化交流館「ALIOS／アリオス」	福島県いわき市
2010/2/5	日本大学江古田校舎中講堂	東京都
// /3/10	新ヤマハ・ホール	東京都
// /7/27	大阪新歌舞伎座	大阪市
// /10/27	東北大学百周年記念会館「川内萩ホール」	仙台市
// /10/28	大船渡市民文化会館「リアスホール」	岩手県大船渡市
// /11/1	渋谷区部文化総合センター大和田	東京都

※社団法人劇場演出空間技術協会(平成2年7月27日～平成22年2月28日)

※公益社団法人劇場演出空間技術協会(平成22年3月1日～)

(2) 海外劇場演出空間施設見学会

実施実績を次表に示す。

・第1回海外劇場施設見学会： 対象施設 ギリシャ地方中心の古代劇場 実施時期 平成8年（1996年）9月22日～10月2日
・第2回海外劇場施設見学会： 対象施設 北イタリア中心のルネッサンス末期／バロック初期の中世劇場 実施時期 平成10年（1998年）5月17日～5月23日
・第3回海外劇場施設見学会： 対象施設 ドイツ地方中心の近代劇場 実施時期 平成12年（2000年）5月13日～5月23日
・第4回海外劇場施設見学会： 対象施設 韓国ソウル市内の劇場（7劇場） 実施時期 平成21年（2009年）9月8日～9月11日



企画運営会議の活動と展望

企画運営会議 委員長 西田直史

企画運営会議は、理事会によって選任された理事（法人会員の場合には代理可）によって構成され、現在は11名のメンバーが月に一度の会合を重ねている。この会議体は、理事会の代行機関であり、協会の執行機関であるというJATETの組織上極めて重要な位置づけにあり、公益社団法人としてJATETの社会的責任が一層重くなった今、企画運営会議を構成するメンバーの判断もまた極めて重い責任を伴うものとなった。公益法人の無駄を洗いなおす公益法人改革の中で、今回、JATETが公益社団法人格を取得したことは、JATETがこれまで果たしてきた「公益性」が公に認められたこととして大きな意味があるが、同時に、企業、個人からなる、本来は私的な存在であるJATETが、「公益性」を担うという構図は、「新しい公共」と呼ばれる社会理念のひとつの体现であり、JATETの運営自体もこうした理念に即したものであることが求められよう。

「新しい公共」の目指す社会は、「支え合いと活気がある社会」であり、「すべての人が居場所と出番があり、皆が人に役立つ喜びを大切にする社会であるとともに、その中から、さまざまな新しいサービス市場が興り、活発な経済活動が展開される社会である」という。

こうした理念を支えるには、相互信頼が厚い構成員が、個々に、主体性、自主性をもってそれぞれの役割を果たすという基盤が必要とされる。この理念は、現代社会が見失ってしまった、自律した個人と、そうした個人と個人とが信頼という絆によって結び合う社会、すなわち「民主主義」の原初的な理念を捉え直すことにほかならないだろう。「公益社団法人」JATETの組織運営にも、こうした理念が貫徹されていなければ、「公益性」を担う主体とはなりえない。更には、劇場というものも、まさにこうした自律する市民の間で生まれ、社会の絆を確認する場として確立されてきたのではなかっただろうか。

JATETが、そして企画運営会議が直面する課題は、財政問題から公益事業の継続的推進、資格制度や助成金事業など新たな公益事業への取り組みなどと山積しており、そのいずれもが喫緊の課題である。しかし、財政基盤の確立という課題ひとつとってみても、組織自体の活性化なくしては達成しえないように、課題が重要であればあるほど、課題に取り組む姿勢が問われる。JATETが築いてきた過去の経験、蓄積を大切にしつつ、個々の責任に基づくオープンで自由闊達な議論がその基礎になければならない。劇場を取り巻く環境も、劇場技術も大きな転換点を迎えている今、JATETが果たさなければならない役割は、極めて大きなも

のがあるだろう。社会の変化は加速度的であり、JATETの改革もまた急を要する。

設立20周年を迎え、公益社団法人移行により今後ますますの社会的貢献が求められる立場となったJATET。全会員一丸となって、協会の現在抱えている課題、将来に向けての展望のために具体的な活動を行い、活性化をすすめる努力を推進しなくてはならない。企画運営会議は、その先頭にたって活動を進めたいと考える。

事業委員会が担う公益活動

事業委員会 委員長 森健輔

事業委員会には教育研修部会、編集部会（JETET誌、JATET JOURNAL）、国際交流部会、インターネット部会が所属していて主にJATETの情報、活動成果の発信を担っていて、2ヵ月毎に委員会を開いています。各部会はそれぞれの立場で情報を提供していますが、事業委員会はより広い内容で、時には技術委員会と協力してフォーラム、セミナー、講演会等を開催してきました。

以前の社団法人では主に会員に向けて活動していましたが、創立20周年の今年、公益社団法人に移行したことにより会員中心から演出空間の技術に関心を持つ多くの人達に向けた活動に大きく舵を切ることになります。

10年前のJATET誌38号（社団法人劇場演出空間技術協会10周年記念号）に掲載された当時の浦部亮次副会長の挨拶に「協会の存在やその活動内容は社会にあまり認知されていないのではないだろうか。公益法人としての地頭な活動自体は重要であるが、世の中にアピールする努力も必要である。どのような手段が適切なのか、広報活動のあり方も含めて具体的な検討の時期に来ていると思う。」とあります。当時と今では協会を取りまく環境は大きく異なっているとはいえ、この言葉に今一度真摯に向き合うことが必要です。

事業委員会に集う委員は演出空間にかかわるプロフェッショナルと自覚しています。プロフェッショナルはラテン語のprofessus、「公に宣言する」からできた言葉ですから、多くの人たちに情報、活動成果を伝えていく人たちでもあります。

幸い伝える手段、媒体は徐々に増えてきています。それらを有効に活用しながら公益に適う活動を確実にするためにstrategyを構築することが創立20周年を期に事業委員会に求められています。

教育研修部会の活動報告と展望

事業委員会 教育研修部会長 小川幹雄

長く部会長を務められました森健輔氏より、平成21年度に部会長を引き継ぎました。

その前年、平成20(2008)年9月に、国際交流部会との共催、並びにOISTAT日本センターの協力で「韓国劇場」見学会が開催されました。そのコーディネーター役が教育研修部会での最初の仕事となりました。見学会では24名の参加者を得て、ソウル市の7劇場を見学し、またOISTAT韓国センター主催のEXPO2008開会式及び授賞式に参加、韓国産業技術院(KTL)との技術交流の場を持つこともできました。それらの内容については、2010年2月のJATETフォーラム2009/2010のセミナーにおいて報告会を持ちました。

その後、平成20(2008)年度には、平成21(2009)年3月の「座・高円寺」劇場見学会を開催し、平成21(2009)年度に入り、6月に大阪市3劇場見学会「堂島リバーフォーラム」「ABCホール」「サンケイホールブリーゼ」見学会を開催、10月には「いわき芸術文化交流館アリオス・中劇場」にて「シンポジウムと見学会'09」を会館等と共催、2010年2月に「日本大学芸術学部中講堂」見学会、3月に銀座「新ヤマハ・ホール」見学会を開催致しました。

平成22(2010)年度には、7月に「大阪新歌舞伎座」見学会、10月に仙台「東北大学川内萩ホール」「大船渡市リアスホール」の見学会、11月に「渋谷区文化総合センター大和田」見学会を開催致しました。

各見学会におきましては、当該劇場の職員やスタッフの皆様、また建築、改築等に携われた各社のご協力により、詳細にわたる解説を拝聴しながら有意義な見学を実施することができました。御礼を申し上げますとともに、今後とも新たな劇場、ホールの新築、改築におきましては、でき得る限り、見学会を開催し、研鑽を積み重ねることで、日本の劇場、ホールの発展に貢献でき得るよう、教育研修部会として取り組んでいく所存でございますので、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

また、教育研修部会では見学会に限らず、公益社団法人にふさわしい内容の教育研修課題を探求していきたいと願っています。広くご意見を賜ることができますようお願い申し上げます。

国際交流部会

事業委員会 国際交流部会長 伊東正示

舞台芸術においても国際交流はますます盛んになっており、海外の著名なオペラハウスのひっこし公演や世界的なオーケストラの来日演奏会が毎年のように行われる状況になっている。また、日本からも多くの上演団体やアーティストが頻繁に海外公演を行っており、それに伴って劇場技術の分野においても規格の統一や安全基準など国際的な視点での検討が強く求められている。

国際交流部会では海外の関連団体との交流を通して、最新の劇場技術に関する情報の収集を行い、世界的な動向をいち早く会員の皆様にご提供できるようにしていきたいと考えている。

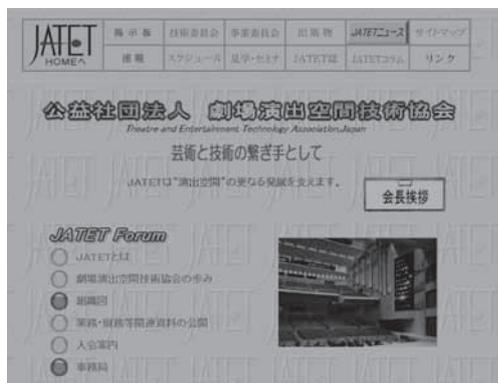
劇場技術および劇場建築に関する国際的な交流活動は、OISTAT(劇場芸術国際組織)日本センターが行っており、JATETはOISTAT日本センターの団体会員として、その活動を中心に支えている。また、国際交流部会の主要なメンバーはOISTAT日本センターのメンバーとしても活動を行っており、ふたつの団体が協働して事業を行う体制としている。

国際交流活動の中でも特に、OISTAT韓国センターおよび韓国産業技術院(Korea Testing Laboratory)とは積極的な交流事業を行っており、その一環として平成20年度には教育研修部会との共同で韓国劇場見学会を開催した。また、翌平成21年度にも韓国ソウル市で行われたワールドステージデザイン(WSD)2009の関連イベントとして、OISTAT日本センターが主催したWSD2009東京展にも参加し、劇場技術の分野においても日韓のきずなを深めているところである。

国際交流部会の定期的な活動としては、OISTAT日本センターに送付されている海外劇場技術関連団体の定期刊行物をチェックし、興味深い記事の概要を翻訳して、逐次ホームページで紹介している。現在、英国、米国、ドイツ、オランダ、スウェーデンの5カ国から発行されている6誌についての紹介を行っているが、今後はその他の国についても定期刊行物の入手を図り、より広い情報提供を行いたいと考えている。

インターネットホームページを 会員全員で作ることを目指して

事業委員会 インターネット副会長 桂川潤次郎



1) インターネット部会

2000年 広報委員会の元にインターネット部会を設けることになり、各委員会、部会より担当委員選出をお願いし、インターネット部会を開催し西山部会長を選出。

2002年 広報委員会等を事業委員会に統合することに伴い、事業委員会インターネット部会に改組。部会は年4回程度開催し、各種作業は作業部会として毎月開催。

2003年 数ヶ月の検討を経て JATET ニュースを創刊。以降 HP の整備、ニュース発行を継続。2010年 西山部会長が退任し、部会長空席が続いている。

2) インターネットホームページの開設と運用

協会の広報、会員サービス、協会のディスクロージャー等のために、西山部会長等の尽力によりホームページ（以下 HP）を2000年に開設。各委員会、部会のページはそれぞれで作成、維持してもらうこととしたが、すべての委員会部会で活用しているとは言いかねるところもある。

JATET FORUM 2007 ではフォーラムの資料配付を HP から参加者自身でダウンロードしてもらう方式を試行。

3) JATET ニュースの発行

JATET の催しや関連団体からの広報依頼を伝えるため、速報性を生かし広く低廉に広報するため月1回を定例に、必要に応じて号外を発行。2003年の創刊以来85号を発行し号外も30号以上に達した。ニュースソースを拡充するため、2010年各委員会部会に広報担当を選任してもらい、ニュース原稿、ニュース編集の協力依頼をしている。

4) JATET 事務局 PC 環境等の整備

インターネットと直接関係はないが、PC に詳しい委員が、JATET 事務局等の PC の購入、設定、ソフトのインストール、トラブル対応等を求めに応じて実施。

5) JATET フォーラム、展示会等の設営記録、事務局内の DVD 視聴環境整備等

これも関連する能力を有する委員が求めに応じて協力。

6) 今後の活動

HP の維持、ニュース発行は今後も継続する必要がありますが、部会長を初め、委員の人材が不足しています。多くの会員がより参加しやすくする態勢を整え、会員全員で作りを上げることを目標としたい。

JATET 誌編集委員会の歩みと展望

事業委員会 編集部会 JATET 誌担当 草加叔也

季刊 JATET が創刊をされたのは、1990年12月25日、ちょうど20年前のことである。それから数えること本号で通巻70号を数えることになる。この間、季刊 JATET は、時代とともにその外観を変容させるとともに協会活動における役割についても重心をやや移動させながら発行を継続してきている。この20年を振り返りつつ、大きく3つの期に分けてその変遷と役割を考えてみたい。

● 季刊 JATET 第一期

季刊 JATET が今から20年前に創刊をされた。高々20年前であるが創刊号の姿形を思い出せる方がいらっしゃるだろうか。当時は、右綴じの縦書き体裁であり、白馬に跨る市川猿之助さんの宙乗りの写真が表紙を飾った。

巻頭言を書かれた盛田昭夫初代会長の言の中に「本誌が皆様方の橋渡しの役割と会員相互のコミュニケーションを深めるための一助となり」という記述がある。季刊誌 JATET では、本協会の活動を広く協会外の方々にご理解いただくとともに、劇場や音楽堂などに係わる多くの関係者を繋ぐサービスオーガニゼーションとして機能を編集方針の大きな柱としてこの間発行を継続してきた。20年は決して長い時間ではないかもしれないが、その成果が評価されるのに十分な時間かもしれない。

この体裁の出版は、1号から四年後の15号まで継続されることになる。

● 季刊 JATET 第二期

季刊 JATET の体裁は、16号で大きく様変わりをする。それは右綴じ縦書きの体裁が、左綴じ横書きに変わるというものであった。近刊号しか記憶のない方々には、現在の体裁がそもそものスタイルと思われている方がいてもおかしくはない。通巻70号を数える内の僅か15号であるが今とは逆綴じの時代があった。

そもそも読み物として魅力的な紙面づくりに重きを置いていた創刊号からのデザインが、アカデミックな論文体裁に変更してはどうかという助言に従い変更をしたと記憶をしている。これは編集体制の大きな変更を期に紙面の体裁も様変わりさせようという意図でもあった。このスタイルはこれ以来、今日に至るまで基本的に継続をすることになる。

また、この号から4号に渡って特集テーマを「照明」「機構」「建築」「音響」とJATET技術委員会の主要部会の活動に置き、連続して特集したのもはじめてである。

● JATET 劇場演出空間技術 第三期

本号が70号であるが、その直近号である69号。これもまた68号とは体裁を大きく異にするものとして驚かれた方も少なくないのではないだろうか。紙面のスタイルについては、16号以来の構成であるが、表紙や広告頁を含めて一切のカラー頁がなくなった。少なからず協会の基礎体力が20年前に比較して脆弱になっていることに起因していることは否めないが、公益法人改革に向けての協会運営体制の大きな見直しの中で、JATET誌を継続発刊していくための決断である。

さらに、JATET誌が担う役割もここに来て分業化が図られるように工夫をされてきた。そのきっかけがJATETジャーナルの創刊である。協会や会員会社等の活動については、以降は基本的にJATETジャーナルが担うこととした。

JATET誌は、20年間紆余曲折の中を協会関係者に支えられながら70号にたどり着けた。決して平坦な道のりではなく、本号が最終到着地点でもない。きっと協会が担う役割が終わるまで、協会誌はその使命を終えることはない。

さらに、本号にも大きな変革の芽が隠されている。それが協会名称の変更である。今号から誌面に記される協会名称の冠が「公益社団法人」に改められた。もちろん、公益という冠は呼称だけの問題ではなく、協会関係者の英知を活かし、能動的な支援を広域的に掘り導いていくことが不可避となる。その活動の成果や効果を蓄えるプラットフォームとして、協会誌が担う役割は益々重要になるのではないかと考える。

最後にあたって、長年本誌出版を実質的に支援し続けていただいた広告掲載会社各位の協力を深く感謝をしたい。

JATET JOURNAL

事業委員会 編集部会 JATET JOURNAL 誌担当 **伊東正示**

JATET JOURNAL は、劇場および演出空間に関する最新情報と協会の活動状況を報告することを目的に、平成20年度に創刊され、年に2回発刊している。

編集方針として、毎回新規に開場した劇場・ホールの特集を組み、建築設計者、劇場コンサルタント、音響設計者からの施設概要の説明や各舞台特殊設備工事施工担当者からのレポートなどにより構成している。創刊号では茅野市民館を取り上げ、その後日田市民文化会館 パトリア日田、JCBホールを特集している。また、JATETの活動状況の紹介として、総会や海外劇場見学会などのJATETが主催したイベントの結果報告を行っている。

会員の発表の場とし、相互交流の機会と技術の向上に寄与することを目指しており、基本的にはその施設的设计および工事に携わった会員に原稿を依頼することになっている。ただし、建築的设计を行った建築家は会員外のことが多いが、それにもかかわらず、毎回力のこもった論文をご提供いただいている。

創刊号では茅野市民館の設計者である早稲田大学教授古谷誠章氏が『人々の交流の駅をつくる』というタイトルで巻頭論文を執筆していただき、また、第2号では日田市民文化会館の設計者である東京大学名誉教授香山壽夫氏に『文化施設の公共性とは何か』を書いていただいた。

各論文では、設計や施工のコンセプトの解説や実際の現場での苦労話、そして設備内容の説明を写真や図面などを添えて詳細に解説している。設計段階からの検討経緯など、当事者でしか知りえない内容も詰まっており、貴重な資料となっている。

今後も話題性の高い新規物件を中心に紹介を行うと共に、より一層の内容の充実を図っていきたいと考えている。



季刊 JATET 第一期 / 1号



季刊 JATET 第二期 / 16号



季刊 JATET 第三期 / 79号



JATET JOURNAL / 創刊号

技術委員会のこれまで、 これから

技術委員会 委員長 **本杉省三**

劇場等における芸術的表現活動は、建築並びに舞台美術・機構・照明・音響・映像などとの総合的成果を目指すものです。それは、空間だけ、技術だけ、人だけが独立して成立するものではなく、社会的要請に基づいて、お互いが協力することから始まるものです。そうした気持ちを持って技術委員会は活動を続けています。技術の向上を追求し、振興する JATET の使命にとって、技術委員会の活動はその骨格を成すものです。各部会から発表されている JATET 規格や研究報告書がその成果です。

我が国の劇場文化・技術面において強い影響を受けたドイツでは、早くから劇場で使用される技術設備・機器に関する規格 (DIN)、劇場建築・劇場技術に関する専門家組織 (DTHG)、舞台芸術の政策・財政・統計等の研究 (Deutscher Bühnenverein)、劇場等で働く人々の労働組合 (GDBA)、劇場技術者養成の教育機関 (各種 Fachhochschule) 等多くの関連機関が協力し合うことで体系立った、しかも安定した活動が行われてきています。そうした総合的な劇場環境整備の成果と必要性を目の当たりにしたのが日生劇場オープニングに際して行われたベルリン・ドイツオペラの初来日公演 (1963 年) だったと諸先輩から聞かされました。それから 40 年以上経た今でも私たちが学ぶべきものの大きさは変わっていないように見えます。

我が国における舞台芸術・舞台技術の水準は、欧米のそれに比して決して見劣りするものではありませんが、芸術文化を育み、楽しむ環境に関しては、社会的に恵まれているとはまだ思えません。文化政策・施設・技術・人・教育・組織等にまとまりがなく、それらの関係も希薄で、まだ十分に機能していない面があるように感じます。これは何も、劇場がドイツのように上演組織と深く結びついていないからという理由で片付けられる問題ではありません。例えば、オランダも日本と同様、施設には上演組織がなく、小さな運営組織しかありませんが、それでもずっと日本より幅広く活発な活動を行っています。オランダも、実はドイツを手本としながら、ここ 2～30 年で飛躍的な成長を見せるようになりました。そこには、文化政策から人材教育、設備・機器製造、施設建設、専門技術者の組織構成など劇場にまつわる幅広い環境整備を下支えとした活発な文化活動があり、それによって劇場技術設備・機器面においても注目すべき進展を見せています。

翻ってアジアを見渡してみると、近年中国の台頭が著し

く、建築デザインから劇場技術設備に至るまで欧米建築家・企業の積極的参入が見られます。こうした旺盛なプロジェクトを足掛かりとして、欧米から学んだ技術を応用しながら国内産業育成に力を入れており、その勢いには目を見張るものがあります。日本の劇場技術産業は、広大なアジアのマーケットに対して今後どの方向に舵を取り、どのような波を乗り越えていくべきなのか考えない訳には行きません。

JATET 規格は、JIS のような政府公認の規格ではありませんが、こうした規格を持つ国は、アジアでは唯一日本だけです。そのことに自信を持ち、安住することなく競争力を鍛え直し、他の追従を許さない領域へと発展させて行かなければならない時期なのでしょう。劇場における文化活動と技術、改修・更新という問題についても、他のアジア諸国より蓄積を持っていますし、サステイナブル技術の劇場への応用という点でも一歩進んでいます。これらを手掛かりとして、新たな取り組みを展開できないものかと考えています。

近年は、技術の安全と向上を願う視点から、保守・保全に力点を置いた研究が、各部会において実施されています。技術委員会を構成する各部会が、あるテーマのもとに協力し合って具体的活動をする機会がこれまではあまりありませんでしたが、今後はできるだけ共通の場を設定して、交流の場面を作るように勤めて行くことができればと思っています。今後とも会員の理解、技術委員会並びに部会メンバーの一層の協力をお願いする次第です。

建築部会の活動報告と展望

技術委員会 建築部会長 **勝又英明** (*)= 藪下 満

1. はじめに

本稿では、2001 年から 2010 年までの 10 年間の建築部会の活動について報告を行う。建築部会では、この 10 年間、大きく 3 つのテーマで活動を行った。「劇場・ホールの改修工事に関する調査研究」、「舞台技術の変遷に関する研究」、「木造劇場に関する研究」である。

2. 劇場・ホールの改修工事に関する調査研究

本調査は、2000 年、2001 年の 2 カ年に渡り実施した。調査は公共ホールへのアンケート調査 (有効回答 314 館) とヒアリング調査 (25 館) であり、改修工事の実施状況・実施時期、建築系・一般設備系・舞台設備系の改修工事の概要、改修工事の起案から実現までのプロセス等が明らかとなった。報告書「劇場・ホールの改修工事に関する調査研究」を 2002 年 3 月に発行した。また概要については日本建築学会大会 (2001,2002) で発表した。

3. 舞台技術の変遷に関する研究

(1) 舞台技術の変遷と今後の方向性

本研究は、戦後60年余における劇場演出空間技術の推移を明らかにし、その背景と理由を探ることにあつた。建築、機構、照明、音響、映像の各分野において、戦後60年間でどのような変化があつたかを、共通プラットフォーム(年表)でまとめ、この各分野を共通プラットフォームにより比較することにより、劇場演出空間技術の推移・ターニングポイント・今後の方向性・問題点、などについて理解を深め、今後の舞台技術の方向性を探りたいと考えた。

年表作成の作業は、JATET技術委員会所属の建築部会・機構部会・音響部会・照明部会・映像部会が各分野を担当した部分と、建築部会でさらに詳細にまとめた部分とからなる。調査の結果は、JATETフォーラム2007で発表した。

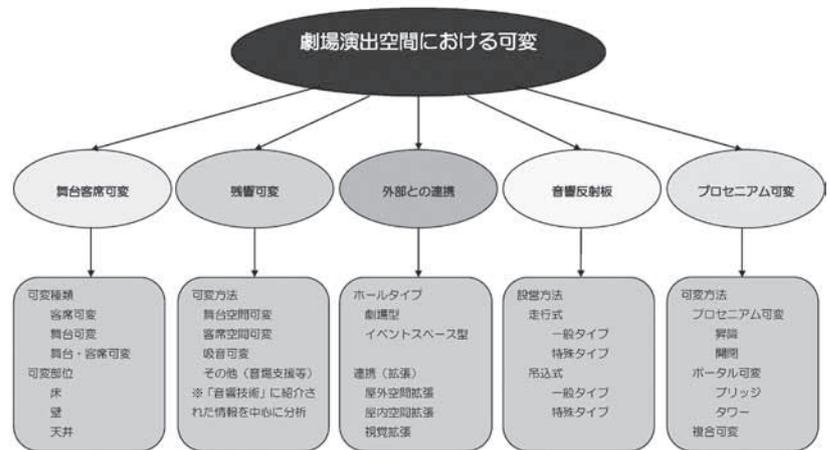
(2) 劇場・ホールにおける可変

前研究に引き続き、本研究では劇場・ホールの重要な要素である可動可変に着目した。可動可変を中心とした劇場演出空間技術の推移、ターニングポイント、今後の方向性、各分野相互間の問題点などについて探ることにより、今後の舞台技術の方向性を探ることを目的とした。可変部位のテーマは舞台客席可変、残響可変、外部との連携、音響反射板、プロセニウム可変の5つである。調査の結果は、JATETフォーラム2009/2010で発表した。(図)

4. 木造劇場に関する研究(※)

五感で感じられる日本固有の劇場空間に、現代に生かせる魅力があるという問題提起から始まった木造劇場研究会で、主に話題になったことは、芝居小屋の音響は良いということであった。そこで芝居小屋の音響調査を全国芝居小屋会議と神奈川大学寺尾研究室の協力を得て行った。幸い平成20年・21年度には財団法人ポーラ伝統文化振興財団より助成を受けることもできた。現存する主だった芝居小屋を15座、さらに東京歌舞伎座や音響反射板を設置した杉田劇場なども調査を行い比較した。(表)

調査の特徴は、芝居小屋の客席空間で計測した音響インパルス応答と無響室録音のさまざまな音楽や朗読とを掛け合わせて仮想現実音を作り、耳で聞いて主観評価を行ったことである。その結果、芝居小屋の音響的特徴は、響きの少なさ、音声明瞭性および方向感ということが分かった。芝居小屋の残響時間は、クラシック用のコンサートに適する残響時間とは全く違い、三味線などの邦楽に適することが分かってきた。調査の結果は、日本建築学会大会(2008,2009,2010)、全国芝居小屋会議(2007,2008)、JATETフォーラム2009/2010で発表した。



図：劇場演出空間における可変

	芝居小屋・劇場名	竣工年
芝居小屋	鳳凰座	文政10年(1827年) 明治16年(1883年)客席部分大改修
	旧金毘羅大芝居金丸座	天保6年(1835年)
	呉服座	明治7年(1874年当初戎座)
	村国座	明治15年(1882年)
	旧広瀬座	明治20年(1887年)
	白雲座	明治23年(1890年)
	常盤座	明治24年(1891年)
	明治座	明治27年(1894年)
	相生座	明治28年(1895年)
	永楽館	明治33年(1900年)
	八千代座	明治43年(1910年)
	康楽館	明治43年(1910年)
	内子座	大正5年(1916年)
	嘉穂劇場	大正10年(1921年)
	ながめ余興場	昭和12年(1937年)
劇場他	つくば古民家	元禄年間(1688~1703年)
	久良岐能舞台	大正6年(1917年)
	東京歌舞伎座	昭和26年(1951年)
	神奈川大学セレストホール	平成8年(1996)
	横浜ふね劇場	平成13年(2001年)
	鹿角市交流プラザ	平成14年(2002年)
	磯子区民センター杉田劇場	平成17年(2005年)

5. 展望

この10年で行った3テーマはどれも関連している。戦後建設された劇場・ホールが大改修、建替えあるいは廃館の時期を迎えており、館の所有者が所有の館をどのような方向に持っていたら良いのか迷っているのではないかと思われる。「劇場・ホールの改修工事に関する調査研究」では改修について把握を行い、各館の所有者が改修について検討する際の参考資料としてほしいと考えた。「舞台技術の変遷に関する研究」では、各館の所有者が、各館の劇場技術についての技術的な位置づけを把握してもらうことを目的とした。「木造劇場に関する研究」では、日本の劇場の原点である木造劇場を理解することにより、各館の所有者が各館の劇場の在り方を再発見してほしいという願望がある。今後は上記のテーマを深めると同時に、劇場・ホールの在り方について建築部会として考えていきたいと考えている。

舞台機構を安全に使用してもらうために

技術委員会 機構部会長 桂川潤次郎



1) 指針等の作成、改訂

それ以前に作成した吊物機構安全指針に続き、この10年間で以下を作成改訂しました。舞台における事故、関連する事故等を検討、協議し、検討中作成中の指針に反映させました。

床機構安全指針・同解説

舞台機構設備機器保守点検時における安全作業指針

吊物バトン積載荷重表示指針

舞台機構設備の運用操作の注意事項（舞台機構設備の取扱説明書の内P Lに関連する事項を改訂）

舞台機構操作で使用される用語と操作釦ボタン等の配置

舞台機構制御盤・操作盤の周囲環境に対する指針

2) 舞台機構を安全に使用してもらうために

人手不足、指定管理者制度等により舞台機構の運用操作に未熟な者が操作する事例が増えています。従来親方が弟

子に、先輩が後輩に指導し、十分安全に使用できるまではさせなかったものですが、十分な技能知識の無いものが操作したり、技能があるかどうか確認もせずに主催者に任せてしまう施設もあるそうです。

舞台機構は使うひとが工夫し、安全を確認して使用する前提で製作設置されています。舞台になるべく多く吊り込みたい、舞台のどこにでも吊りたいとの要求に応えることを優先して機構を作っています。舞台機構が所定の動作範囲で停止するなどの制御は設けていますが、吊り物どうしや吊り込んだ大道具等がぶつかるのを防止するのは、使うひとの役割とされています。手動カウンターウェイト式バトンの操作も技術伝承が途絶えてしまい、危険な状態で使用している事例が多いと聞いております。

床機構でも、舞台床を動かすという前提があります。出演者や大道具を運ぶ用途に使っているため、それに適した設備であるかのように考えるのは間違いです。転落を防止するために迫りや固定舞台側に手すり等を立てることは少なくとも本番時には用途上不可能です。技術的にも、舞台床面が隙間だらけになるのを避ける、迫りの他の機能を優先するなどのために、搭乗者や積載物を保護する機能は後回しにされています。このため、搭乗者や積載物の安全確保は使用するひとの責任で運用することになっています。委託先や主催者に操作させる場合も、操作する者が技能知識をそなえており安全に運用していることを、委託元である施設は管理する責任があります。これら及び次項を指針、JATET フォーラム、ホームページ等で発表するなど、今後も続ける予定です。

3) 保守点検を実施してください

舞台機構では、機器の劣化症状が表面化する前に故障や事故が起きるのが特徴です。症状が出た後では手遅れになります。このため、定期的に設備を点検し、わずかな変化をとらえて予防保全のための更新や精密点検を提案するのが保守点検の役割です。このため同じ点検者が継続して点検することが異状発見の確率が高くなります。人間ドック検診と同様、同じ点検者点検するのが望まれます。

予兆を示さない故障、事故もあるので、故障ゼロを保証するものではありません。事故、故障軽減するための重要な手段ですので、施設管理者、所有者は保守点検を実施する責任があります。

4) 韓国産業技術試験院 (KTL)、舞台施設安全診断支援センターとの技術交流

5) 今後の活動

指針等は今後も作成改訂を続けます。今後の舞台機構は予測できませんが、映像・動画を舞台美術に取り入れることにより舞台美術が大きく変化し、それにより舞台機構も大きく変化することもありそうです。

部会活動の変遷と新たな展望

技術委員会 照明部会長 伊藤安雄

これまでの照明部会の活動（以下部活）を纏めると共にこれからの部活計画を述べ、旧に倍するご指導とご協力をお願いしたい。

部活の記録は、休むことなく隔月開催した120回を超える部会議事録として保存されている。どなたにも閲覧頂きたいのだが、四百余頁に及ぶ内容であるから、何れデータベース化して必要な情報を提供したいと考えている。

部活はボランティア活動である。これまで審議に参された方は延べ百名を超えている。その殆どは部会委員の歴代諸氏であるが、必要に応じ斯界の諸先生方にも加って頂いた。

20周年を迎えるに当たり、部会を代表し関係各位に熱く御礼申し上げたい。またこれまでの部活内容の要約を報告したうえで、公社の照明部会として今後の部活のあり方を述べ諸兄弟のご指導を仰ぎたい。

部活の最初は『舞台照明用語』の定義であった。この頃第二国立劇場の設計の最中で、担当の建設省のご理解を得るための舞台照明用語のオーソライズが喫緊の課題であった。これに応えた用語の制定であり、JATET規格第1号となり部活の最初の成果となった。

続いて『調光特性の標準』を規格化、以後続々とJATETのL規格を制定し、5年ごとに専門委員会による再審議と部活として再承認を行ってきた。こうして常に生きたJATET規格の維持をしている。

これら20件を超える照明規格が、第二国立劇場の建設をはじめ、当時の劇場ホール等の新設ブームに合わせた指針として、文化的工業的貢献を果たしてきた。

この他に、部会発の国家規格と準規格もある。何れも他機関の協力を得て実現したものである。舞台スタジオ用照明器具の安全に関する要求事項を定めたJIS規格、及び演出空間に於ける現行法の限界適用を定めた劇場電気設備の安全指針で、一般出版物として普及している。

この間、徐々に劇場ホールやTVスタジオの新設ブームは去り、リニューアル時代が始まる。そして今は相續ぐ税収減による地方公共団体の文化関係経費の下方修正が続く時代となった。加速する機器設備の老朽化に耐えつつ新たな機能維持を策定する時代となった。

相次ぐ技術革新の中で更新期経過機器の陳腐化は、交換部品の欠如等の問題を抱えており、安全性の低下に更なる拍車加わり、リニューアル実施が喫緊の問題となっている。

残念ながら文化経費削減の傾向は変わらず、何から更新するか何から修理するか、リニューアルの仕訳けを行う正に延命時代が迫っている。

一方IT革命を中心とする社会的変化と国民の文化レベルの向上は、バックステージに対し効率的効果的且つ安全で高度な芸術表現が可能な演出空間を求めている。これに応える人材と機器の開発が求められている。

前者は(社)日本照明家協会等が活発に行っており、部会は公社定款の定めに基づく後者に注力し、そのための人材育成を使命としたい。

少子高齢化が進み、バックステージ界の人材不足時代となった。伝統技術の継承が課題となっているが、それ以前に必要な労働力確保も困難になりつつあり、設備機器の改良による省力化と、時代に合わせた省エネ施策が急がれている。機器の性能も照明効果の他に高度な安全性にたつてフルプルーフでサステイナブル扱い、更にマルチユースが求められる。如何にしてこの様な二律背反関係を解決するか公社部会としての実力が問われている。

もとより、劇場ホールの設備機器の基本技術は他の産業技術応用であるが、連続使用をせず長くても数時間しか使用しない。また数回繰り返した後、再度利用されるまでの期間が長いのが特徴である。

このため機器の限界を超えた瞬間利用がしばしばなされ「危険と効果は紙一重」と言われる冒険運用がされる。運用に際し、使用機器の性能と個々の履歴を熟知した専門家の扱うものである。

JATET会員の販売する機器には、扱いの限界を明示したJATETマークを付ける事を義務付けている。劇場外で利用されている器具に付いているJATETマークを発見して頂きたい。

部会組織には、活動中の3研究会と休部中の研究会がある他、国内外の規格情報の調査、芸文協活動への協力作業があり、それぞれ担当主査がまとめている。

3研究会は、定期的に関われる制御信号の在り方を扱うプロトコル研究会、LED,OLED等を扱う新光源研究会、220V化等を扱う新配電研究会である。他に随時開かれるJATET-L規格をチェックする各研究会がある。これらの概要は冒頭に述べた部会議事録で公開している。

これからの課題も色々ある。まず規格化した設備機器の老朽化診断を利用者自体で行い、安全運用できる機器状態と可能な延命策を認識して頂く必要がある。そのうえで、法的資格をもつ専門家による定期検査を受け、文化的財産としての維持方法と、加えるべき必要機能の指示を受ける制度を目指したい。

技術革新も加速が止まらない。バックステージ自体がロボット集団に向かって歩み出した。でも我々はロボットに使われてはならない。この原則のもとに新しいシステムを提案していくことこそ公社の使命であろう。

照明部会の諸君よ、思い切って暴れて欲しい！

その場を創る。それが部会長の仕事である。

映像部会活動報告と今後の展望

- 創造性をかきたてる大型映像 -

技術委員会 映像部会長 大澤博二

1. まえがき

初代映像部会長実相寺昭雄氏の後を継いで平成9年に再スタートした我が映像部会は、発足した新メンバーとの協議の結果、映像の広範な分野の中で、演出空間に於いて進歩の著しい大型映像を第一の目標と定めた。

2. 大型映像とは

多くの人々に、すばやく情報の伝達が可能で、集客にも有力な大型映像は、現在では演出空間には、なくてはならない存在である。

そして、その華やかな存在の一方、プレゼンテーション、展示などの部門にも欠くべからざる位置を占めつつある。

さらに、IT化、デジタル化による映像関連技術の急速な進展は、大型映像のソフト、ハードの両面に多大な影響を与え、大型化、高精細化、多様化そして3D化などの推進力につながった。

我が映像部会が発足してからほぼ13年、大型映像の定義の検討から始まり、諸兄のご指導、ご協力のもと、手探り、手弁当で現在まで下記の項目を中心に調査、研究、解析を取り進めてきた。

- ・大型映像の分類
- ・大型映像の利用の変遷
- ・大型映像の実用例
- ・大型映像の未来

なお、著作権の関係もあって写真、ビデオほかの資料が思うように発表出来ない事を、お許し願いたい。

2. 大型映像の分類

表1 主な大型映像装置の分類は、JATET規格の(JATET-V-1010 自発光方式大型映像装置用語解説集)を取りまとめた時(2001年1月)に発表されたものを改訂したものであり、当時の状況から現在までのシステム、ハードの変遷も説明しやすいので、取り上げた。

なお、対象とする画面サイズは100型(100インチ)以上としている。

3. 大型映像の利用の変遷

多くの用途に共通して

- ・大型化、曲面化
- ・マルチ化(多面化、シースルー化)
- ・高精細化
- ・ハイブリッド化(機器の組み合わせ)
- ・低廉化
- ・軽量化
- ・省エネ化
- ・安全対策

などの傾向が著しい。

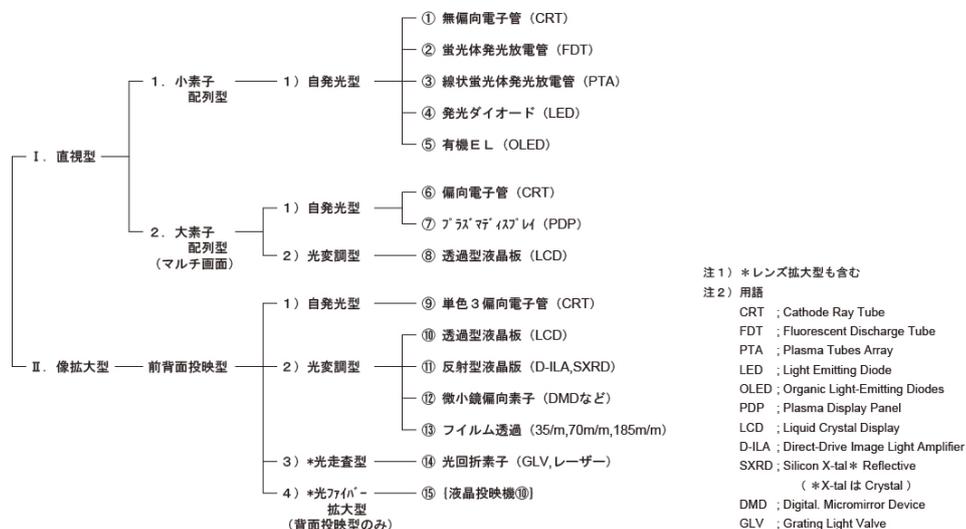
そして、映画産業のデジタル化、ホームシアターの普及などに密接な関連を有している。

なお、大型映像にセットされる音響システムも次第に重要視され、特に大型化、高精細化に伴う高品位のサラウンド方式が開発されつつある。

また、なくてはならぬものとして高画質で効率的なスクリーンが挙げられる。

表1

主な大型映像装置の分類



4. 大型映像の実用例 (歴史)

- ・ラテン 2000. A. 2000.11.3
- ・オルフェオ 2001. 3. 2
- ・Stage Show 2002. 11.28
- ・MTV.A. 2002.11.24
- ・A.M.A. 2003. 1.26.
- ・ニュースステージ 2009.10.5
- ・マルシエル 2003.12.26
- ・セリーヌ・ディオ 2004.1.15
- ・ビデオ・マッピング 2009.12.31
- ・ビデオ・ウォール 2008. 9.14

5. 大型映像の未来

大胆に推測すれば

- ・美しくて魅力ある画面のビルボード (ソフト、ハード)
- ・有機ELの進展 (LEDに代わる)
- ・高輝度、高精細度ムービング・プロジェクターの利用
- ・イベント、ステージなどに於ける電子背景の容易化
- ・バーチャル・リアリティの進展 (3D化、効果用リアクションの付加)
- ・2K, 4K, 16Kのすみわけ
- ・スーパーハイビジョンに対する伝送路
- ・疲れない3D
- ・実物大再現が可能なホログラフィ
- ・レーザー光源ディスプレイの大型化
- ・メディア・サーバーの普及

これからの大型映像の調査、研究と安全対策を進めるには、ソフト、ハード、システム各々の進展とコストの変化を見極めて取り組むこととしたい。

6. 大型映像運用安全基準についての研究会

劇場等演出空間運用基準協議会に於ける安全基準ガイド・ブック作成への協力として、平成22年2月より17社による研究会を定期的に開催して、レーザー関係も含んだ大型映像の安全運用基準の取りまとめを積極的に行っている。

また、その一環として、本年7月に行われた第17回愛知県舞台技術者セミナーに、研究会のメンバーも参加し、演出空間に於ける大型映像の設置、使用、撤去などで円滑な進行と安全を確保する為の実技の検証を、愛知県舞台運営事業協同組合の多大な協力を得て実施することが出来た。

役員名簿

[代表理事・会長]

高田 一郎

武蔵野美術大学名誉教授

[理事・副会長]

森 健輔

森平舞台機構株式会社代表取締役

丸茂 正俊

丸茂電機株式会社代表取締役

吉田 章

東芝ライテック株式会社システム事業部長

[専務理事]

木村 孝

協会専任

[理事]

阿部 茂樹

株式会社東京舞台照明執行役員

石井 英勝

カヤバシステムマシナリー株式会社代表取締役会長

伊東 正示

株式会社シアターワークショップ 代表取締役

伊藤 安雄

照明家

大野 晃

日本舞台監督家協会会長

小川 幹雄

財団法人新国立劇場運営財団技術部課長

勝又 英明

東京都市大学工学部建築学科教授

草加 叔也

劇場コンサルタント

国重 静司

株式会社NHKアート取締役

小柳 聡

ビクターアークス株式会社取締役システム営業部長

近藤 五十武

株式会社サンケン・エンジニアリング取締役営業統括部長

崎山 征雄

不二装備工業株式会社代表取締役

佐藤 壽晃

舞台照明家

高野瀬 誠

ヤマハサウンドシステム株式会社代表取締役社長

永井 章

三精輸送機株式会社取締役専務執行役員

西尾 榮男

株式会社総合舞台代表取締役

福島 洋志

横浜市泉公会堂館長

村上 利夫

パナソニック電工株式会社照明事業本部照明システム開発部部长

本杉 省三

日本大学理工学部建築学科教授

山崎 泰孝

建築家

八幡 泰彦

音響デザイナー

[監事]

奥畑 康夫

照明デザイナー

尾澤 輝行

税理士法人尾澤会計事務所代表

(2010年5月28日選任、50音順)

■ J A T E T 出版物一覧表

担当部会	分類	JATET 規格番号	表 題	頁数
建築部会	建築	JATET-A-5010	劇場演出空間データシート (CD-ROM①付き)	123
		JATET-A-6020	劇場演出空間データシート2 (CD-ROM②付き)	116
		JATET-A-7030	劇場演出空間データシート3 (CD-ROM③付き)	129
		JATET-A-8040	劇場演出空間データシート4 (CD-ROM④付き)	139
		JATET-A-2050	劇場・ホールの改修工事に関する調査研究	109
機構部会	機構	JATET-M-2011	演出空間の基準・規則・安全について	50
		JATET-M-4010	舞台機構機器の操作で使用する用語	16
		JATET-M-6010	舞台機構制御盤・操作盤の周囲環境に対する指針 (改訂審議中)	12
		JATET-M-6020	吊物ボタン積載荷重表示指針 (改訂版印刷準備中)	5
		JATET-M-6030-2	吊物機構安全指針・同解説	85
		JATET-M-4010-1	舞台機構操作で 사용되는用語と操作釘等の配置	20
		JATET-M-5040	床機構安全指針・同解説	54
		JATET-M-5090	舞台機構設備機器保守点検時における安全作業指針	9
JATET-M-6040	舞台機構設備の取扱説明書の内P L に関連する事項 (JATET 資料)	13		
照明部会	照明	JATET-L-2160	演出空間用照明器具のつり下げハンガー (手締め式) 規格	6
		JATET-L-2170	演出空間用照明器具の平置きスタンド規格	8
		JATET-L-3010	照明等演出用設備の伝送規格	50
		JATET-L-3011	リモコン照明機器制御の規格について	46
		JATET-L-3020	演出空間照明用調光器調光特性規格	6
		JATET-L-3030-2	演出空間専用差込接続器C型 20A	7
		JATET-L-5040-2	演出空間専用差込接続器C型 30A	8
		JATET-L-5050-2	演出空間専用差込接続器C型 60A	8
		JATET-L-5070-2	演出空間照明器具等の銘板類の表示規格	30
		JATET-L-5080-2	演出空間用照明器具及び照明機材等の安全表示ガイドライン	43
		JATET-L-6060-2	演出空間専用差込接続器D型 20A	7
		JATET-L-6090	COMOS フロッピーディスク調光データフォーマット規格	33
		JATET-L-6180	演出空間照明用サイリスタ調光器のノンディム機能規格	22
		JATET-L-7100-1	演出空間用調光装置の表示規格 (銘板類)	13
		JATET-L-7110-1	演出空間用調光装置の安全確保のための表示ガイドライン	31
		JATET-L-7120-2	漏電感知器付き調光器規格	11
		JATET-L-7190	劇場等演出空間用照明設備更新のためのガイドライン	138
		JATET-L-719 1	劇場等演出空間用照明設備の劣化診断・適正更新時期判定プログラムCD (JATET-L-7190 対応版)	-
		JATET-L-8110-1	演出空間用調光装置の安全基準	31
		JATET-L-9130	演出空間照明機器類のダボ及びダボ受けの寸法規格	7
JATET-L-9140	演出空間用照明器具のフィルタホルダ* およびフィルタホルダ* 枠の寸法規格	7		
JATET-L-1150	照明演出用調光装置の共通データ規格	28		
音響部会	音響	JATET-S-4041	劇場演出における音響効果測定について	54
		JATET-S-5030	劇場・ホール舞台連絡設備指針	30
		JATET-S-2050	移動及び持込音響機器における音響電源設備の安全基準	30
		-	スピーカーシステムを懸垂する場合の「基本原理」吊下げスピーカーの安全性について	28
		-	劇場ホール建築音響サイドからの要望事項について	9
		-	劇場演出機器設計基準に関する研究「音声明瞭度指数STIのホール音響設計への適用についての調査研究」	23
-	Pro Audio Acoustics Technical CD (プロオーディオ音響技術CD)	-		
映像部会	映像	JATET-V-1010	自発光方式大型映像装置 用語解説集	17
各特別委員会	全般	JATET-G-4031	劇場マネジメント関連の人材育成について	53
		JATET-G-4041	新分野集客施設の実態について	51
		JATET-G-4051	劇団経営実態に関する調査研究について	54
		JATET-G-5010	劇場用語	9
編集部会	全般	-	機関誌「J A T E T」(1号～68号) (カラー)	-
		-	機関誌「J A T E T」(69号) (モノクロ)	-
		-	JATET JOURNAL (1号～3号)	-
JATET/ 電気設備学会	照明	-	劇場、映画館等の誘導灯の消灯について (電気設備学会と共同)	11
	全般	-	劇場等演出空間電気設備指針 (電気設備学会と共同)	445
OISTAT		-	シアターワーズ (new THEATRE WORDS world edition)	247

■機関誌 J A T E T 特集記事一覧

No.	特 集 記 事	No.	特 集 記 事
創刊号	翔ぶ、跳ぶ、飛ぶ	36	リニューアルpart II
2	育つ、育てる	37	伝統芸能劇場
3	つなぐ、結ぶ	38	劇場演出空間技術協会10th
4	たつ、たてる	39	地域の劇場・ホールII
5	自治体 文化する	40	専用劇場
6	劇場へのアクセスサービス	41	教育機関の劇場・ホール
7	演出空間の多様性	42	東京の小劇場
8	大道具製作の現場	43	芝居小屋
9	二一世紀の音楽空間のために	44	舞台を創る
10	伝統とハイテクノロジー	45	放送スタジオとホール
11	バーチャル・リアリティ	46	建築
12	世界劇場会議	47	機構
13	ライブSFX	48	照明
14	法規制緩和でひらける新たな舞台表現	49	音響
15	公共ホールの企画と運営	50	映像
16	照明	51	人形劇場
17	機構	52	舞台技術ワークショップ
18	建築	53	拠点劇場
19	音響	54	創造支援
20	阪神大震災	55	コンサートホールII
21	稽古場練習場	56	大型展示場
22	アートコンプレックス	57	コンバージョン施設
23	野外劇場	58	公立能劇場
24	コンベンション施設	59	地域遺産
25	コンサートホール	60	J A T E T フォーラム 2 0 0 5
26	大型集客施設	61	劇場のつくりかた、つくられかた
27	新国立劇場の舞台設備（1）	62	地域の劇場・ホールIII
28	新国立劇場の舞台設備（2）	63	創造+劇場空間
29	地域の劇場・ホール	64	空間を活かす
30	公民のコンプレックス施設	65	劇場演出空間とNPO
31	多面舞台ホール	66	フェスティバル
32	音楽のための練習場	67	地域からの発信
33	リニューアル	68	劇場再生
34	仮設劇場	69	演出空間技術
35	地域のコンサートホール	70	劇場演出空間技術協会20th

■ JATET JOURNAL 特集記事一覧

No.	特 集 記 事
創刊号	茅野市民館
2	日田市民文化会館
3	J C Bホール

■調査研究報告書一覧

No.	特 集 記 事
1	英国における演出空間の標準・規則・安全等に関するあり方並びに同空間同技術展示開催に係わる調査研究
2	英国及び独国における演出空間の標準・規則・安全等に関する調査研究
3	国内及び欧州新分野集客施設実体調査
4	リモコン照明制御規格に関する調査研究
5	米国新分野集客施設実体調査
6	劇場演出用機器設備基準に関する調査研究（リモコン照明規格・電気音響設計基準）
7	感性産業に関する調査研究
8	劇場産業の振興に関する調査研究
9	劇場演出における音響効果測定方法等に関する調査研究
10	照明機器制御信号用試験器開発調査研究
11	劇団経営実態に関する調査研究
12	調光データ共通プロトコル規格開発に関する調査研究
13	平成8年度劇場機構設備の荷重・強度に関する調査研究
14	劇場電気音響最終調整用CDに関する調査研究
15	劇場装置等にかかる安全性に関する調査研究（照明器具落下防止装置）